国立国語研究所学術情報リポジトリ

基礎篇第二十六課　このきっぷを　あげます：やり・もらいの表現１

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2020-03-25
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 国立国語研究所
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002802

日本語教育映画解説26

基礎篇第二十六課

このきっぷを　あげます

——やり・もらいの表現　1——

国立国語研究所

前　書　き

国立国語研究所では，昭和49年度以来，日本語教育教材開発事業の一環として日本語教育映画基礎篇を作成してきた。これは従来，文化庁において進められていた映画教材作成の事業を新たな形で引き継いだものである。

日本語教育映画基礎篇は，各課およそ5分の映画にそれぞれ完結した主題と内容を持たせ，それを教育の必要に応じて使用する補助教材，また，系列的に初級段階の学習事項を順次指導する教材として提供しようとするもので，全30課を昭和58年度までに完成した。

映画の作成にあたっては，原案の作成・検討から概要書の執筆まで，また，実際の制作指導においても，日本語教育映画等企画協議会委員の方々に御協力頂いた。ここに厚く御礼申し上げる。

この解説書は，映画教材の作成意図を明らかにし，これを使用して学習し，指導する上での留意点について述べたものである。この解説書がこの映画教材の利用を一層効果あるものにすることを願っている。

この第二十六課「このきっぷを　あげます」の解説は，日本語教育センター日本語教育指導普及部日本語教育教材開発室が企画・編集し，執筆にあたったものは，次のとおりである。

本文執筆　　川瀬　生郎（元日本語教育センター日本語教育指導普及部長・東京大学教授）

資料　1.，2.　日向　茂男（元日本語教育センター日本語教育指導普及部日本語教育教材開発室・東京学芸大学助教授）

昭和62年12月

国立国語研究所長

野　元　菊　雄

目　　次

1.　はじめに…… 1
2.　この映画の目的・内容・構成…… 2
2.1.　目的…… 2
2.2.　内容・構成――場面を中心として…… 3
2.2.1.　言語場面，言語表現についての扱い…… 3
2.2.2.　言語場面，言語表現についての解説…… 4
(1)　人間関係…… 5
(2)　場面の構成…… 6
(3)　各場面ごとの言語表現等について…… 7
3.　この映画の学習項目の整理……24
3.1.　やり・もらいの表現(1)……25
3.1.1.　話し手の視点と授受者……25
3.1.2.　文構造について……29
3.1.3.　移動の方向と話し手の意識……31
3.1.4.　待遇度……33
3.2.　あいさつ等の表現(1)……36
3.2.1.　その日，初めて人と顔を合わせた時……37
3.2.2.　「失礼します」の用法 ……38
3.3.　男ことばの問題(1)……39
4.　練習問題……41
4.1.　導入と練習の与え方……41
4.2.　「あげる」「もらう」「くれる」の基本的用法に関する
練習問題例……42
4.3.　「さしあげる」「いただく」「くださる」の用法に関する
練習問題例……44
4.4.　映画の場面を使っての練習例……44
5.　参考文献……47
資料1.　使用語彙一覧……51
資料2.　シナリオ全文……75

1. はじめに

この日本語教育映画基礎篇は，初歩の日本語学習期における視聴覚教材として企画・制作されたもので，この映画「このきっぷを　あげます」は，その第二十六課にあたるものである。

この映画の企画，概要書（シナリオ執筆のための最終原案）の作成等にあたったものは，次のとおりである。

昭和57年度日本語教育映画等企画協議会委員（肩書きは当時のもの）

石田　敏子　国際基督教大学講師
木村　宗男　日本語教育学会専務理事
工藤　　浩　国立国語研究所言語体系研究部研究員
窪田　富男　東京外国語大学教授
斎藤　修一　慶応義塾大学国際センター教授
佐久間勝彦　東京外国語大学講師
杉戸　清樹　国立国語研究所言語行動研究部研究員

国立国語研究所日本語教育センター関係者（肩書きは当時のもの）

野元　菊雄　日本語教育センター長（前期）
南　不二男　　〃　　（後期）
川瀬　生郎　日本語教育センター日本語教育指導普及部長
日向　茂男　　〃　　日本語教育教材開発室長
清田　　潤　　〃　　〃　　技官
中道真木男　　〃　　〃　　研究員

この映画「このきっぷを　あげます」は，日向茂男，清田潤の原案に協議委員会で検討を加え，概要書にまとめあげてから制作したものである。制作は，日本シネセル株式会社が担当した。概要書のシナリオ化，つまり脚本の

執筆には同社の前田直明氏があたり，また同氏はこの映画の演出も担当した。ただし演出の際の言語上の問題については，協議会委員及び日本語教育センター関係者の意見が加えられている。

本解説書は，日本語教育教材開発室が全体企画・編集を行い，執筆には川瀬生郎元指導普及部長があたった。また資料1.，資料2.は，日向茂男元教材開発室長が担当した。全体の企画，また執筆にあたっては，この映画の企画・制作段階での意図が十分生きるよう努めた。

現在，この映画は，より多くの人の利用の便をはかって下記の九か所において貸し出しを行っている。

- 北海道教育庁指導部社会教育課視聴覚教育係
- 宮城県教育庁社会教育課
- 都立日比谷図書館視聴覚係
- 愛知県教育センター企画管理係
- 京都府教育庁社会教育課
- 大阪府教育庁社会教育課
- 兵庫県教育庁社会教育・文化財課
- 広島県教育庁社会教育課
- 福岡県視聴覚ライブラリー

なお，この映画は，そのビデオ版とともに上記制作会社が販売している。

2. この映画の目的・内容・構成

2.1. 目的

この映画「このきっぷを　あげます　―やり・もらいの表現１―」では，物の授受に関する日本語の基本的な表現を具体的な人間関係や場面の中で提示し，学習者に授受動詞の用法を理解させることを目的としている。

授受に関する表現を「受給関係を表す言い方」「やりもらいの表現」と言うこともある。

この映画では，事物の授受を意味する基本的な動詞として，「やる」「あげる」「さしあげる」，「もらう」「いただく」，「くれる」「くださる」の3類7種の動詞を扱う。授受表現には「与え手」と「受け手」，「話し手」と「聞き手」の人間関係やそれぞれの立場が関与し，多様な表現が用いられる。待遇表現に関しては，第29課「よくいらっしゃいました」，第30課「せんせいをおたずねします」でまとめて扱うが，この映画では授受行為を通じて待遇表現の初歩的な理解を図ることも目的の一つとしている。

このほかに，場面に応じたあいさつ表現，対人関係に応じた話し言葉の男女差についてもこの映画で扱う学習項目としている。

なお，動作・行為の授受を表す補助動詞「～てやる」「～てもらう」「～てくれる」などの用法については，第27課「にもつをもってもらいました　―やり・もらいの表現2―　」で扱う。

2.2.　内容・構成――場面を中心として

2.2.1.　言語場面，言語表現についての扱い

この映画での場面や言語表現については，以下のとおり扱うことにする。

1.　映画の構成にしたがって場面を分ける時には，Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ……のようにし，それをさらに短いシーンに分ける時には，Ⅰ―1，Ⅰ―2，Ⅰ―3……のようにする。

2.　言語表現については，文単位で①，②，③……のように通し番号をつける。類似文や変形文を引用する時には，①′，②′，③′……のようにする。変形引用が二つ以上ある時には，″，‴……の順で′を重ねていく。

3.　この映画の中に現れていない文や語句を例示する時には，〔　〕付きの番号をつけ，それに関連した引用文や引用語句には，2.の場合と同様に′印をつける。一群の文や語句を例示する時にも，出現順に通し番号をつける。

本解説書での言語表現の扱いについては，文単位の認定に多少問題のあるところもみられるが，ここでは，積極的には，その問題に触れない。

なお，①，②，③……の文番号は，使用語彙一覧で引用される文や，シナリオ全文につけられた番号と共通である。

2.2.2. 言語場面，言語表現についての解説

この映画の主題は，「やり・もらいの表現」である。日本語の授受表現は外国人学習者にとっては極めて難しい学習事項の一つである。英語などでは，「give（与える）」と「receive（受け取る）」の二つの動詞で済ませる表現が，日本語の場合には基本的な動詞だけでも「やる／あげる／さしあげる」「もらう／いただく」「くれる／くださる」の3類7種の動詞が使われるからである。このほか「与える」「贈る」「授ける」，「受ける」「受け取る」「授かる」などもある。これらの動詞を場面や文脈に適合させてまちがいなく使い分けることは，外国人学習者にとっては容易なことではない。ここでは，基本的な7種の授受動詞を用いた言語表現が，どのような場面でどのように用いられているかを見ていくことにする。

授受表現を形成する要素としては，授受者，話し手の視点，文構造，待遇度，移動の方向，授受物，表現場面などが考えられる。これらの要素が複雑にからみあって，種々の表現形式が成立する。話し手の実現する発話行為はその中の一つが場面条件に合わせて選択されるのである。

与え手Aが受け手Bに授受物Cを授与したことを言う場合に，文形式としては，

(1) AガBニCヲヤッタ／アゲタ／サシアゲタ

(2) BガAニ／カラCヲモラッタ／イタダイタ

(3) AガBニCヲクレタ／クダサッタ

の3類7種（文構造としては，ニ格，カラ格があるので9種）の型がある。文形式については詳しくは，3.1.の項で解説する。

この映画で提示された主な映像場面は，東京の冬の屋外・屋内の情景，日

本の会社のオフィス内の様子，会社でのサラリーマンの生活，歌舞伎の一場面，夜の銀座通り，東京タワーなどである。

この解説書では，まず映画の場面を追いながら個々の言語表現について解説し，次節でこの映画の学習項目の整理を行いながら授受表現のまとめをする。

映画の構成は，歌舞伎の切符のやりとりをめぐって展開する。ある会社に勤めるサラリーマンが恋人といっしょに歌舞伎を見に行こうと思って購入した２枚の切符が，恋人とのいさかいから宙に浮いてしまう。この２枚の切符は社内さのまざまな人の手を経て，最後にはまた元の二人の手に戻ることになる。歌舞伎の切符のやりとりに関する上司と部下，男性社員と女性社員などの会話が，ある日の会社内の様子と共に展開される。

(1) 人間関係

この映画に登場する人物は次のとおりである。

高橋：男性，会社員，26～28歳，吉田の恋人

吉田：女性，会社員，23～25歳，高橋の恋人

加藤：女性，会社員，20～22歳

田中：女性，会社員，35～40歳

井上：男性，会社員，26～28歳

山田課長：男性，会社員，43～47歳

課員１：女性，会社員，22～24歳

課員２：男性，会社員，22～24歳

いずれも同じ会社に勤めるサラリーマンである。年齢的には，山田課長の40代を最高に30代後半の古参女性社員田中，次いで中堅どころの20代後半の男性社員高橋，同僚の井上，20代前半の女性社員吉田，新入女性社員で最も若い加藤，その他若い男女課員である。上司と部下，先輩社員と後輩社員，同僚，男性と女性など会社内の人間関係によって授受表現の使い分けがなされる。

(2) 場面の構成

この映画は次の13場面から構成されている。

場面Ⅰ　夕方の公園で（①～⑤）

○東京タワーの見える公園

○公園のベンチで口論する高橋と吉田，宙に浮く歌舞伎の切符

場面Ⅱ　会社のエレベーター・ホールで（⑥～⑲）

○高橋の勤めるオフィス・ビルの１階，エレベーター前のホール

○出勤する会社員のあいさつ，２枚の切符は高橋から部下の女性社員加藤へ

場面Ⅲ　会社の事務室で(1)（セリフなし）

○事務室で働く加藤等社員の様子

場面Ⅳ　喫茶店で（⑳～㉛）

○会社の昼休み，都合で歌舞伎を見に行けなくなった加藤は田中に相談，切符を山田課長に回すことにする

場面Ⅴ　会社の事務室で(2)（㉜～㊿）

○会社の昼休み，新聞を読む山田課長，２枚の切符は加藤から課長へ

○植木に水をやるため湯沸かし室へ行く加藤

場面Ⅵ　湯沸かし室で(1)（セリフなし）

○植木に水をやる加藤

場面Ⅶ　会社の事務室で(3)（(52)～(59)）

○昼休みの事務室，２枚の切符のうち１枚は山田課長から井上へ

場面Ⅷ　湯沸かし室で(2)（セリフなし）

○植木に水をやり終える加藤

場面Ⅸ　会社の事務室で(4)（(60)～(73)）

○午後の事務室，忙しく働く課員，切符は急用の生じた山田課長から吉田へ

場面Ⅹ　会社の別の事務室で（(74)～(82)）

○高橋のいる部屋，切符は井上から高橋の手に戻る

場面Ⅺ　国立劇場で（セリフなし）

○客席に並んで歌舞伎を見る高橋と吉田

○歌舞伎の一場面

場面XII　会社の事務室で(5)（㊸～㊽）

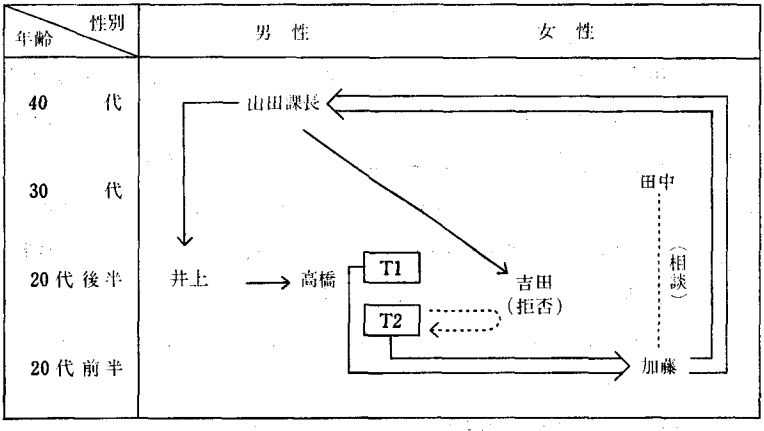
○仕事を終え，退社する社員

○切符のゆくえについて話す山田課長と加藤，井上

場面XIII　夜の銀座通りで（セリフなし）

○年末の銀座通りを仲良く歩く高橋と吉田

2枚の切符（T－1，T－2）の授受者と移動の方向を図示すれば次のようになる。



(3)　各場面ごとの言語表現等について

映画の各場面は状況に応じていくつかの小場面に区切れる場合がある。各場面，あるいは小場面ごとに順を追って，それぞれの場面で用いられた言語表現や状況等について解説する。

I　夕方の公園で（①～⑤）

大都会東京の中にある小公園である。公園の向こうには東京タワーのネオンが見える。カメラはゆっくりと公園のベンチに近づく。ベンチには若い男

女，高橋と吉田が腰かけ，口論をしている。二人の言い争う声がかすかに聞こえてくる。

この場面では，ストーリーの発端となる人物の紹介と映画全体を通してなされる授受行為の対象物，歌舞伎の切符が提示される。映画の導入部の役目を果たす場面である。授受表現そのものは提示されない。

吉田「①ぜったいに，いやよ。」

高橋「②そんなこと言っても……。」

吉田「③わたし，帰る。」

高橋「④待てよ。」

⑤あしたの切符，どうするの。」

①は強く拒否する時の言い方。「いや（嫌）」は，とても受け入れる気持ちになれない，これ以上続けたくないという意向を示す時に用いる。語義的には嫌悪の情を示す語であるが，表現機能としては拒否の気持ちを表す。「いやよ」は女性の言い方。男性の場合は「①′ぜったいに，いやだ」と言う。

②は，相手の拒否に当惑した様子を表している。「そんなこと」の指す内容は，この会話に至る話のいきさつが示されていないので具体的には不分明であるが，①の発話を受けて，「②′ぜったいにいやだと言っても……(困るなあ)」という意味に理解しておけばよいだろう。「そんなこと言っても」は，くだけた会話では相手の発言に反発すも気持ちを込めて「②″そんなこと言ったって」と言うことがある。

④は，「待つ」の命令形「待て」に終助詞「よ」の付いた形。「待て」だけだと，号令をかける場合とか逃走する泥棒を追う場面など，やや距離を置いた人物に対して言う場合に用いることが多い。終助詞「よ」を付すことにより，親しい間柄の個人的な感情が加わり，やや柔らいだ表現になる。なお，連用形「待って」を用いれば，強い命令でなく，依頼の意となる。

⑤の「あしたの切符」は，あした二人が行く予定にしていた歌舞伎の切符の意。当事者には何の切符かはわかっている。映画を見る者には，次の場面Ⅱ

で歌舞伎の切符だということがわかる。感情を害している女性は，⑤に対して何も答えず立ち去る。「無言」という態度で拒否の気持ちを表明している。

この場面は，映画の導入部なので，二人の親しい男女が口論し予定していた切符が渡せなかったことが理解できればよい。

Ⅱ　エレベーターの前で（⑥～⑲）

エレベーター・ホールのあるビルの１階。高橋の勤める会社はこのビルの中にある。

Ⅱ－１　朝のあいさつ（⑥～⑨）

ビルの入口を入ってきた若いＯＬ加藤がエレベーターを待つ高橋に近づく。高橋が恋人の吉田と口論した翌日の朝である。

加藤「⑥高橋さん，おはようございます。」

高橋「⑦やあ，おはよう。

⑧きょうは，寒いね。」

加藤「⑨ええ，とても。」

ここでは典型的な朝のあいさつ例が示されている。年下の女性は「おはようございます」と丁寧に言っているのに対し，年長の男性は「やあ，おはよう」と答えている。一般に日常のあいさつでは，天候や寒暖について言うことが多い。⑧は，丁寧な表現では，「⑧′きょうは，お寒いですね／お寒うございますね」などと言う。

Ⅱ－２　歌舞伎の切符について(1)（⑩～⑲）

切符をポケットから出す高橋。恋人の吉田に同行を拒否されたので，加藤に切符をやる。

高橋「⑩ああ，そうだ。

⑪加藤さん，この歌舞伎の切符，よかったら，あげるよ。」

加藤「⑫いつのですか。」

高橋「⑬きょうのだよ。」

加藤「⑭あら，２枚も？

⑮いいんですか。」

高橋「⑯うん。

⑰いらなくなったから……。」

加藤「⑱じゃあ，いただきます。

⑲どうもありがとうございます。」

⑩は，何かを思い出したり，これから行おうとすることを思い描いたりする時に発する独白的な言い方。㉗「あっ，そうだ」，㊽「そうだ」も同様。

⑪の「歌舞伎」は，日本の代表的な古典芸能の一つ。江戸時代に大成された独特の様式美を持つ演劇。場面XIでその一場面が紹介される。この「切符」は高橋が恋人の吉田といっしょに見に行こうと思って購入した予約券。「よかったら，あげるよ」は，目下の者に対してなら「⑪′よかったら，やるよ」と言うのがふつうだが，ここでは相手が女性なので，やや丁寧に「あげる」を用いている。「やる」は乱暴な感じを与えるので，最近はより上品な感じを与える「あげる」の方が一般に多く用いられる。特に丁重に言う場合には，㉞の「よろしかったら，さしあげますが……。」という言い方になる。「あげる」は，㊷㊹㊾㊿(94)にも提示されている。

⑰の「いらなくなったから……。」は，「(この切符は) 不必要になったから（あなたにあげるので，別に他意はない)」の意で，高価な切符の受け取りをためらう相手の気持ちを察して言った言葉。「いら（ラ行五段動詞「要る」の末然形）＋なく（打消の助動詞「ない」の連用形）＋なる（ラ行五段終止形)」は，意味上の分割をするなら，「いらない＋なる（不必要になる)」として与えればよい。必要，欲求，可能等の状態の変化が生じることを言う連語として「～く／になる」の形式を指導すべきであろう。同様の形式は，㉑㊴㉑に「行けなくなる」の形で提示されている。

⑱「いただきます」は「もらいます」の丁寧な言い方。感謝の気持ちを込

めて用いる謙譲語。与え手が目上の人，尊敬すべき人，恩恵を授けてくれる人などの場合に使う。「いただく」は「もらう」の意のほかに「食べる／飲む」の意でも用いられ，食事を提供された時のあいさつ語としても使われる。「いただく」は，㊼㉒㉒にも提出されている。

Ⅲ　会社の事務室で(1)（セリフなし）

加藤の勤める会社の事務室の様子。電話の受話器を取る加藤。吉田，田中，井上，山田課長，その他２・３人の課長が仕事をしている。典型的なオフィス風景である。この場面では，これ以後登場する人物と映画の主要舞台となる事務所を紹介している。

Ⅳ　喫茶店で（⑳～㉛）

会社の近くの喫茶店内。昼休みに加藤が先輩のＯＬ田中とお茶を飲みに来ている。

Ⅳ―１　歌舞伎の切符について(2)（⑳～㉔）

加藤はハンドバックから歌舞伎の切符を取り出す。

加藤「⑳あっ。

㉑この切符，高橋さんにもらったんだけど，行けなくなってしまったんです。」

田中「㉒高橋さんがくれたの？

㉓あ，きょうのね。」

加藤「㉔ええ。」

⑳の「あっ」は，⑩と同様，思い出し，気付きの気持ちを声に発したもの。㉑は，話し手加藤が受け手の立場にあるので「もらう」と表現している。与え手は高橋。「もらう」の場合，与え手を「ニ格」または「カラ格」で示す。「もらう」の用法は，㊴㊵㊽㊼にも提出してある。

㉒の「くれる」は，授受動作に関する話し手の視点は与え手側高橋にある。「ダレガクレタノカ」「高橋ガクレタノダ」の意である。話し手の視点が与え手にある「アゲル」をここで用いないのは，田中の意識が受け手側加藤にあるためである。同席している話し相手加藤の立場に立って「クレル」を用いたのである。つまり，「(高橋) 対 (加藤・田中)」の構図から，高橋を「ソト」，加藤を「ウチ」として把えた表現である。「くれる」の用法は，㊾㊿にも提示してある。

㉓の「あ」は，気付きの発声。「きょうのね」は「きょうの切符ね」の意の確認表現。切符の日付を見て念を押したもの。

Ⅳ—2　歌舞伎の切符について(3)（㉕～㉛）

喫茶店内で。加藤，田中二人の会話が続く。

加藤「㉕だれか行く人，いないでしょうか。」

田中「㉖そうね。

㉗あっ，そうだ。

㉘課長さんにさしあげたら，どう。

㉙歌舞伎がとても好きだそうよ。」

加藤「㉚そうですか。

㉛じゃあ，課長にさしあげることにします。」

㉕の「だれか」は人についての不定称。ここでは，歌舞伎を見に行く人を特定できないので，「だれが行くかはわからないが，行く人はいないか」の意。事物・事柄については「何か」，場所については「どこか」，時については「いつか」のように疑問詞に「か」を付した形で用いる。「だれか」の用法は㊷㊹にも，「何か」の用法は㊷に提示してある。

㉖の「そうね」は，相手の発言に対して考慮中であることを示す言い方。やや丁寧に言う時には「㉖′そうですねえ……。」の形が用いられる。語末をやや延ばして言うことが多い。

㉗は，⑩㊽と同様，気付き，思い出しの発言。

㉘「さしあげる」は，「あげる」の丁寧な言い方。最も敬意の高い尊敬語である。受け手の課長は，加藤・田中の上司であり，年齢的にも職階上も話し手側より上位にある者なので「さしあげる」を用いた。「さしあげる」の用法は，㉛㉞にも提出されている。なお，同じ職場の部内の者どうしでは，人名「山田」を用いず，役職名「課長」と呼ぶのがふつうである。課長が複数いて，特定する必要がある場合には「山田課長」とか「会計課長」のように言う。「課長さん」と役職名に「さん」を付して呼ぶと親近感を込めた言い方になる。「～したら，どう」は，助言，勧告の意を表す言い方。相手に行動の選択をゆだねた婉曲的な勧めの表現である。

㉙は，相手に納得させる気持ちから㉘の理由付けをした表現。「好きだそうよ」の「そう」は伝聞の意。「好きそうよ」だと伝聞ではなく様態の意となる。

㉛の「さしあげることにします」は，「さしあげることに決めます」の意。一般に，話し手の主体性に基づく決定を言う時には，「～(する)ことにする」の形式を用い，決定の仕方が話し手の主体性と無関係の場合には「～(する)ことになる」の形式を用いる。

V　会社の事務室で(2)（㉜～㊶）

加藤の勤める会社の事務室。休憩時間に山田課長がひとり自席でたばこを吸いながら新聞を読んでいる。

V—1　歌舞伎の切符について(4)（㉜～㊵）

加藤が部屋に入ってくる。加藤は新聞を読んでいる課長に切符を差し出す。

加藤「㉜課長，ちょっと失礼します。」

課長「㉝うん。」

加藤「㉞この切符，よろしかったら，さしあげますが……。」

課長「㉟ほう，歌舞伎だね。

㊱今日のか。

㊲2枚あるね。」

加藤「㊳ええ。

㊴人にもらったんですが，急に行けなくなってしまったんです。」

課長「㊵じゃあ，もらいます。」

㉜は，課長に対する呼びかけ。社内では上司に対し名前を呼ばず職名を言うのがふつうである。課長に対する呼びかけは㊲にも提出されている。課長を指す言い方は，㉛㉒㊾㊿を参照されたい。「ちょっと失礼します」は，入室の際のあいさつ。㉜′「ちょっとお邪魔します」と言うこともある。㉝の「(お先に) 失礼します」は，退出の際のあいさつ。「失礼します」は様々な場面で用いられるので注意すべきあいさつ語である。詳しくは，3.2.の項で解説する。

㉞の「さしあげる」は，㉘㉛と同様，上位受け手に対する尊敬語。「よろしかったら，さしあげますが……」は丁重な申し出。⑪の同位受け手に対する言い方「よかったら，あげるよ」と対比すること。文末の「が……」は，言いさしの形で相手の意向をたずねる形式。「……」は，「いかがでしょうか」の意。このような相手に選択をゆだねる余地を残した婉曲的な表現は，話し手の丁重な態度を示すことになる。㉟「ほう」は，何か興味あることに気付いたり，関心をひかれたりした時に発する声。「歌舞伎だね」は，「(ぼくの好きなあの) 歌舞伎 (の切符) だね」の意。

㊴の「人」は，「ほかの人」の意。ここでは，特定人物 (授与者高橋) の名を出さずに，自分がわざわざ購入したものではないということを表現したもの。高価な切符に対する相手の気兼ねを取り除く意図がこの表現に込められている。ここの「もらう」は待遇表現としては中立的な言い方。㉑㊵㊽㊼を参照されたい。待遇度の高低について詳しくは，3.1.4.で解説する。「急に」は，「(行くつもりだったが) 突然 (都合が生じて)」の意。㊺を参照すること。

㊵の「もらう」は，上司である課長が若い課員に対して用いたもの。恩恵

を与える者を上位に置いた表現「いただく」を用いることも可能だが，「いただく」を使うと丁重すぎて親密感を欠くきらいがある。

V—2　歌舞伎の切符について(5)（㊶～㊼）

課長と加藤のやりとりが続く。加藤は，課長に2枚の切符を渡す。

課長「㊶だけど，ぼくは，1枚だけでいいな。」

加藤「㊷それでは，だれかにあげてください。」

課長「㊸そうかい。

㊹じゃあ，1枚はだれかにあげよう。」

加藤「㊺ええ，どうぞ。」

課長「㊻ありがとう。」

（ここで加藤は退出する。）

課長「㊼井上君にでもやろう。」

㊶の「だけど」は，「だけれど」の縮約された形。丁寧な言い方では，㊶′「ですけど」，㊶″「ですけれど」になる。前文を受けて，次にそれにふさわしくない内容を述べる時に使う接続詞である。「そうではあるが，しかし」の意。くだけた日常会話で多く男性が用いる。㊶「(ぼくは)～だけでいい」は，「そのものだけがあれば，他は不必要だ」の意。ここでは「もう1枚の切符はいらない，1枚だけもらう」の意味である。

㊷，㊹の「あげる」は，与え手は課長だが受け手が特定できない「だれか(に)」の場合である。受け手が，話し手当事者側（この場合，課長と加藤）よりも上位の者（例えば社長）ということが明らかならば，あるいはそのことが話し手の念頭にあれば，「さしあげる」を用い，受け手が下位の者なら「やる」を用いるであろう。その意味で，ここの「あげる」も中立的用法である。㊷の「あげてください」の「～てください」は依頼の表現，㊹の「あげよう」の「よう」は話し手の意志を表す助動詞である。

㊸「そうかい」は，相手の発言を了解した時に言う言葉。イントネーションは下降調。上昇調で言うと，相手の発言内容に疑問をいだいている意にな

るので注意すること。くだけた会話で男性が用いる。丁寧に言う時には，㊸′「そうですか（イントネーション下降調）」となる。

㊼は，課長の独白的表現。加藤が退出してからの独り言であり，ワキの聞き手がいない場面なので丁寧に言う必要がない。また，受け手「井上君」は課長からみて下位者であることからも「やる」を用いたのである。もし，他の人がその場に居合わせたならば，ワキの聞き手を意識してやや丁寧な「あげる」を用いることもある。「やる」の用法は，次の㊾および㊼㊷にも提出されている。なお，上司が年下の部下のことを言う場合，女性に対してでも「君」を用いることがある。

V—3　花に水をやる（㊽～㊿）

加藤が自分の席に着こうとする。向かいの席には田中がいる。加藤は植木鉢に水をやらなければいけないことに気付く。

加藤「㊽あっ，忘れていた。

　　㊾花に水をやってきます。」

田中「㊿あっ，そうね。

　　51お願いするわ。」

㊾は，授与する対象が事物「花」なので，待遇度上位の「あげる」「さしあげる」は用いない。一般に，動物や植物など人間以外の事物を授与対象とする時には「やる」を用いる。女性や幼稚園児などがよく「犬に餌をあげる」と言うことがあるが，これは，尊敬語としての「あげる」ではなく，上品さを表すための美化語的用法である。「あげる」の用法が尊敬語から美化語に移行しつつある現象の一つと考えられる。授与対象が人間の場合の「やる」については，㊼㊼㊷に提出してある。

51の「お願いするわ」は，年長の女性田中が年下の加藤に花への水やりを依頼した言葉。女性課員が水やりをすることになっているのであろう。

VI　湯沸かし室で(1)（セリフなし）

植木鉢に水をやる加藤。水道から出る水の音が聞こえる。

Ⅶ　会社の事務室で(3)（㊷～㊾）

井上が部屋に入ってくる。

課長「㊷井上君，今夜，何か用事がある？」

井上「㊸いえ，何もありませんが。」

課長「㊹歌舞伎に行かないか。」

井上「㊺ああ，いいですね。」

課長「㊻はい。」

井上「㊼はっ，いただきます。」

課長「㊽加藤さんにもらったんだが。」

井上「㊾ああ，そうですか。」

㊷は，相手の都合を聞く時の言い方。「今夜は暇があるか」の意。「今夜」は「きょうの夜」の意で，語義的には日没後暗くなってから次の日の明け方前までの時間を指すが，ここでは，暗くなってから寝るまでの時間のこと。「今晩」よりもやや遅い時間を言う時に用いる。「何か」は疑問詞に助詞「か」を付けた形の不定詞。特定できない事物や事柄を言う時に用いる。人の場合には㉕㊷㊹にあるように「だれか」を用いる。「用事」は済ませておかなければならぬ仕事，用件。㊻も参照のこと。

㊸は，「何も用事はないが，（私に何か御意向があるのですか）」という気持を言外に込めた表現。言いさしの形により，相手の発言を待つ気持ちを示している。「何もありません」は，「疑問詞＋も＋否定表現」の形式で，そのことがまったくないことを表す言い方。

㊼は，⑱同様，「もらいます」の丁重な言い方。受け手下位の謙譲語である。㉒㊷も参照のこと。

㊽は，受け手が上位なので「いただく」でなく「もらう」を用いている。㉑㊴㊵㊼を参照のこと。「もらったんだが」は切符の出所を示す補足的な表

現。この表現には，（わざわざ購入した ものではないから 気兼ねは無用だ）という意が込められている。

Ⅷ　湯沸かし室で(2)（セリフなし）

加藤は，植木鉢に水をやり終える。

Ⅸ　会社の事務室で(4)（⑥⓪～⑦③）

午後の事務室である。課員たちが熱心に執務している。

Ⅸ—1　仕事が急に忙しくなって（⑥⓪～⑥⑦）

時計は3時25分を指している。打ち合わせをする課長と井上。仕事が急に忙しくなった様子である。

課長「⑥⓪じゃあ，今日中に頼むよ。

⑥①わたしは，こっちをするから。」

（忙しく働く課長と井上のところへ吉田がお茶を持ってくる。3時ごろ休憩時間をとる職場が多い。）

吉田「⑥②どうぞ。」

課長「⑥③ああ，ありがとう。」

吉田「⑥④たいへんですね。」

課長「⑥⑤ああ，急に仕事ができてね。」

吉田「⑥⑥コピーをとりましょうか。」

課長「⑥⑦じゃあ，これを頼む。」

⑥⓪の「今日中に」は，「きょうの うちに」の意。接尾語「～じゅう」は，期間を表す語に付けて「その間ずっと続いて」の意を示すが，「～じゅうに」の場合は，期間の限定を示す。「一日中仕事をする」は前者，「今日中に仕事をする」は 後者である。「今日中に 頼むよ」は「今日中に（仕事を終えることを）頼む」の意。「頼む」は相手にあることをしてほしいと依頼すること。丁寧に言う場合には，⑥⓪′「では，今日中にお願いします」と な る。なお，「～中」の言い方は，結び付く語によって「じゅう」「ちゅう」2通りの発音

があるので注意すること。「今日中，一年中」は「じゅう」，「戦時中，期間中，学期中」は「ちゅう」である。「今週中，来週中，一月中，今月中」などは人により「ちゅう／じゅう」両用の発音があるようである。また，ある動作や状態の続いている最中を言う「食事中，勉強中，授業中，休暇中，休業中，会議中，在米中」などは「ちゅう」と発音し，ある一定の限定された場所のすべてを表す「家中，日本中，世界中」などは「じゅう」と発音する。「学年中」は，期間の意味では「ちゅう」，ある学年生のすべての意味では「じゅう」と発音する。

⑥⑪の「こっち」は「こちら」のくだけた言い方。「わたしはこっちをするから」は仕事を分担し，一方を受け持つの意。

⑥⑤の「仕事ができて」は，「仕事が生じる」の意。「彼はよく仕事ができる（仕事をこなせる，能力がある）」と取り違えないよう注意すること。⑧⑧の「仕事ができてしまって」も同様「生じる」の意。

⑥⑥「コピーをとる」は，複写機などを使って文書を複写すること。「コピーする」とも言う。「～しましょうか」は，援助・協力を申し出る時の言い方。仕事の内容がわからない時には「何かお手伝いしましょうか」などと言う。

Ⅸ—2　歌舞伎の切符について(6)（⑥⑧～⑦③）

仕事の都合で歌舞伎を見に行けなくなった課長は，自分が使う予定の切符を吉田にやる。

課長「⑥⑧そうだ。

⑥⑨この切符，よかったら，あげるよ。」

吉田「⑦⓪ええ……。」

課長「⑦①忙しくなって，行けなくなってしまったんだ。」

吉田「⑦②それでは，いただきます。

⑦③ありがとうございます。」

（井上は，書類を持って事務室を出ていく。）

㊾「よかったら，あげるよ」は⑪とまったく同じである。丁重な言い方は㉞を参照のこと。「あげる」の用例は，㊷㊹㊿にも提出されている。

㊿「ええ……」は，課長からの突然の申し出にややとまどった吉田の応答。態度を明確にせず，ちゅうちょしている気持ちがこの応答に示されている。

(71)は，課長が相手のとまどいの気持ちを察して，切符が不要になった理由を述べたもの。「忙しくなる」「行けなくなる」は，状態の変化を表す言い方。

(72)「いただきます」は，部下の立場にある吉田が上司の課長から物を授与される場合の表現。「いただく」については⑱(57)(92)を参照のこと。

X　会社の別の事務室で（(74)～(82)）

井上が書類を持って，同僚高橋のいる部屋に入ってくる。

井上「(74)これ，5時半までに頼むよ。」

高橋「(75)うん，分かった。」

井上「(76)ところで，今夜，用事あるかい。」

高橋「(77)うん……？」

井上「(78)この切符，やるよ。

(79)山田課長がくれたんだが……。」

高橋「(80)山田課長がくれた？」

井上「(81)うん。

(82)それじゃあ。」

（仕事の都合で歌舞伎に行けなくなった井上は同僚の高橋に切符を渡す。とまどう高橋の肩をたたいて井上は去る。）

(75)の「うん，分かった」は，親しい男性間での応答。相手の発言を理解し，承諾する場合に用いる。丁寧な言い方には，(75)′「はい，分かりました」，(75)′「はい，かしこまりました」，(75)「はい，承知いたしました」などの言い方がある。

㊻「ところで」は，話題を変える場合に用いる接続詞。「今夜，用事あるかい」は，極く親しい男性間で用いる。㊷の解説を参照されたい。相手の都合をきく丁寧な言い方には，㊻′「今夜，何か用事がおありですか」，㊻″「ご都合はいかがですか」などがある。

㊼「うん……？」は，相手の発言の意図が不分明な場合に発する声。極く親しい者同士の会話で用いる。イントネーションは，㊺の了解の場合と逆に，上昇調の引き延ばしになる。「どうしてなんだろう，何を意図しているのだろうか」という不審と期待の気持ちがその抑揚に込められている。

㊽「やるよ」は，話し手である与え手と，聞き手である受け手が親しい者同士の場合である。「やる」については㊼㊾㊷も参照のこと。

㊾の「山田課長」は，同じ課の者どうしが言うなら，㉘で述べたように「課長」とだけ言うのがふつうである。井上と高橋はおそらく別の課に属しているのだろう。「山田課長がくれたんだ」の「くれる」は，㉒同様，話し手の視点が与え手にあり，授受の方向が「ソト」（課長）から「ウチ」（話し手側）にある場合である。

㊿の「くれる」も，㊾同様である。課長と課員，上司と友人という人間関係において，高橋が井上と同じ側に位置しての発言である。井上や高橋が，上位者課長の動作に尊敬語「くださる」を用いないのは，親しい者同士のくだけた会話だからである。課長あるいは課長に近い関係の者が「ワキの聞き手」として同席している場合ならば，㊾′「山田課長がくださったんだが」と言うであろう。なお，年配の女性は，上品さを意識して「くださる」を用いることが多い。

XI　国立劇場で（セリフなし）

高橋が劇場に入り，指定された席に着く。隣りには恋人の吉田がすでに来ている。幕が上がると，客席のざわめきが静まり，きらびやかな歌舞伎の舞台が出現する。

〔国立劇場〕ここで簡単に国立劇場の説明をしておく。国立劇場は，東京都

千代田区にある。1966年に開場された，鉄筋コンクリート造り，地上3階地下2階の建物である。劇場内部には大劇場，小劇場，演芸場，資料室，食堂などがある。歌舞伎，文楽など日本の古典芸能をはじめ各種の催しが行われる。

歌舞伎は，能，狂言や人形浄瑠璃とともに日本の古典芸能を代表する演劇。出雲阿国（1607年没）が創始したと言われ，江戸時代に隆盛を極め，人々に親しまれてきた。

この映画に出てくる舞台は，「歌舞伎十八番」の一つ，「七つ面」の一場面である。役者は，市川羽左衛門，尾上松緑などである。

XI　会社の事務室で(5)（㊸～㊽）

夕方，退社時の事務室である。課長と井上は残業をすることになる。

XI—1　歌舞伎に行くことについて（㊸～㊿）

一日の仕事を終えた課員が事務室を出ていく。そこへ加藤が現れ，歌舞伎を見に行くはずの課長がいるのを不審に思う。

課員A「㊸お先に失礼します。」

課員B「㊹お先に。」

課長「㊺うん。」

加藤「㊻あらー？

㊼課長，歌舞伎には？」

課長「㊽あー，残念だけど，仕事ができてしまって……。」

加藤「㊾そうですか。」

課長「㊿それで，吉田さんに切符あげたんだよ。」

㊸の「お先に失礼します」は，退出時のあいさつ語。先に帰る者が残っている者に言う。自分が他の者より先に何かを行うことを詫びる気持ちから言う。㊹は，それを短縮した形。丁重さはやや欠ける。「失礼します」は，㉜にも提示されているが，そこでの用法は入室の際のあいさつ語である。

㊻は，意外なことに出会った時，女性が発する感動詞。㊼「歌舞伎には？」は，「歌舞伎には（いらっしゃらなかったのですか）」の略された形。㊻㊼ともイントネーションは上昇調。

㊽「残念だけど」は，期待に反し不満足な気持ち，未練が残る場合に用いる前置きの言葉。直截的な言い方を柔らげる効果がある。

㊿「あげる」は，与え手課長の行為。受け手吉田は部下の課員であるが，聞き手の女性加藤側に属する女性なので，「やる」を用いると乱暴で横柄な感じになる。

XII—2　歌舞伎の切符について(7)（(91)～(98)）

この場面で，課長，井上，加藤のやりとりから切符の行くえが明らかになる。当初，高橋が恋人吉田といっしょに行くつもりで購入した2枚の切符は，加藤から山田課長へ，課長から1枚は吉田へ，1枚は井上を経て再び高橋の手に戻ったのである。

課長「(91)井上君はあの切符どうした？」
井上「(92)ああ，課長にいただいた切符は，高橋君にやりました。」
加藤「(93)えー？
　　(94)高橋さんにあげたんですか。」
井上「(95)そうだよ。」
加藤「(96)あの切符は，けさ，高橋さんが，わたしにくださったんです。」
井上「(97)えっ，高橋君にもらったの？
　　(98)じゃあ，あの切符は……。」

(91)「あの切符は」の「あの」は，眼前にある事物を指示するのではなく，前に述べた事物や事柄を示す文脈指示の用法。文脈指示に用いる「あの」は，話し手も聞き手もすでに了解している事柄について用いる。「あの切符」は「さっき君にあげた例の切符」の意。井上は(92)で「ああ，課長にいただいた切符は」と受けているが，「ああ，あの切符は」でもよい。(96)(98)の「あの」も同様である。

㉒の「いただく」は，受け手井上が上司の課長に対して用いた受け手下位の謙譲語。「いただく」については，⑱㊼㉒も参照のこと。「高橋君にやりました」の「やる」は，井上が同僚の男性課員高橋を受け手として，与え手の立場で言ったもの。話し手が女性なら，上品さを失わないために「高橋さんにあげました」のように言うだろう。「やる」について は，㊼㊾㊽を参照のこと。

㉔「高橋さんにあげたんですか」は，女性加藤の発言。与え手井上も受け手高橋も，話し手加藤より先輩であるが，加藤と話題の人物との人間関係は「さしあげる」を用いるほどには離れていない。「あげる」については⑪㊷㊹㊾㊿を参照のこと。

㉖「高橋さんがわたしにくださったんです」の話し手加藤は，与え手高橋より年下の女性 で あ る。受け手下位の立場から 上位者の授与行為を尊敬語「くださる」を用いて表したのである。

㉗「高橋君にもらったの」の「もらう」は，話し手井上が，与え手である同僚高橋，受け手である 後輩加藤との関係 から用いた。「もらう」については㉑㊴㊵㊽を参照のこと。

XIII　**夜の銀座通りで**（セリフなし）

高橋と吉田は，歌舞伎終演後，夜の銀座通りを歩く。仲なおりした恋人同士の散策を見おろすかのように，銀座４丁目角の服部時計店の時計台が時を刻んでいる。夜の銀座の雑踏はいつもと変らず続いている。

3.　この映画の学習項目の整理

前章2.2.では，この映画の構成，内容に則して言語表現上の問題や言語場面について述べた。この章では，主要学習項目であるやりもらいの表現と，関連学習項目のあいさつ等の表現，男女による言葉づかいの差異について解説する。なお，やりもらいの表現(1)では，事物の授受に関する本動詞について述べ，行為の授受を表す補助用言についての解説は基礎篇第27課の解説書

で，やりもらいの表現(2)として扱う。

3.1. やり・もらいの表現(1)

授受表現に関与する基本的な動詞には，2.2.2.で述べたように「やる／あげる／さしあげる」「もらう／いただく」「くれる／くださる」の3類7種の語がある。このほかに事物の授受を示す語としては「与える」「贈る」「渡す」「授ける」，「受ける」「受けとる」「授かる」など多くの動詞がある。奥津敬一郎（1983）は，基本的な授受動詞7語の用法について，「1. 与え手主語か・受け手主語か，2. 敬語か・非敬語か，3. 身内へか・よそものへか，という三つの対立の組合わせで7語のちがいが説明できる」とし，「この3組の対立の中，敬語と身内の概念は，きわめて日本語的な社会言語的概念で，しかもその運用は場面によってかなりちがうから，外国人には非常にむずかしい」と述べている。

ここでは，授受動詞の使い分けについて，(1)話し手の視点と授受者，(2)文構造，(3)移動の方向と話し手の意識，(4)待遇度の4つの観点から検討する。

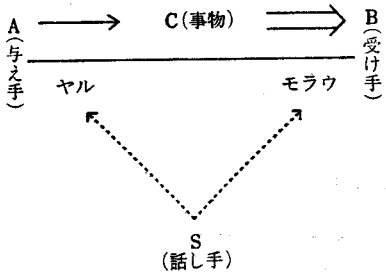
3.1.1. 話し手の視点と授受者

(1) 話し手が授受者でない場合

最も基本的な表現は，図1に示した関係である。

図では，移動の方向を矢印（→ヤル，⇒モラウ，⇒クレルで表示する。

（図1）



「ヤル」は「やる・あげる・さしあげる」を代表し，「モラウ」は「もらう・いただく」を，「クレル」は「くれる・くださる」を代表するものとする。

図1で，話し手の視点が事物を発出する与え手A側にあれば，その表現は

AガBニCヲヤル

となる。話し手の視点が事物を受入れる受け手B側にあれば，

BガAニ／カラCヲモラウ

となる。同じ一つの受給行為をどちらの視点から言うかによって，動詞が異るのである。英語のgive，日本語の「やる／あげる／さしあげる」「与える」「渡す」「授ける」などは，みな与え手側に話し手の視点がある場合に用いる動詞である。英語のrecive，日本語の「もらう／いただく」「受け取る」「授かる」などは受け手側に話し手の視点がある場合に用いる動詞である。

この場合の文構造は，「ヤル」では「ガ格（主語）」の位置に与え手を置き，「ニ格（間接目的）」に受け手を，「ヲ格（直接目的）」に授受物を置く。「モラウ」では，「ガ格」の位置に受け手を，「ニ／カラ格」に与え手を，「ヲ格」に授受物を置く。文構造について詳しくは次節で検討する。

この映画の中で用いられた次の表現はこの系列のものである。

加藤「㊷それでは，だれかにあげてください。」

（課長ガだれかニ切符ヲヤル）

加藤「㊹高橋さんにあげたんですか。」

（課長ガ高橋ニ切符ヲヤッタ）

田中「㉘課長さんにさしあげたら，どう。」

（加藤ガ課長ニ切符ヲヤル）

井上「㊼えっ，高橋君にもらったの？」

（加藤ガ高橋ニ／カラ切符ヲモラッタ）

(2) 話し手自身が授受者の場合

ここで，話し手自身が授受者となる場合を見てみよう。話し手自身が授受動作者である場合には，次の図2，図3に示す形式が用いられる。

（図２）

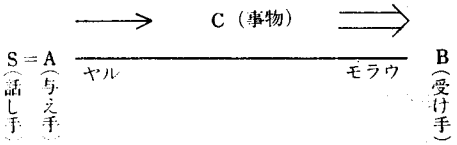


図２で，話し手の視点が与え手側（発出）にあれば，

私ガＢニＣヲヤル

となり，話し手の視点が受け手側（受入れ）にあれば，

Ｂガ私ニ／カラＣヲモラウ

となる。

（図３）

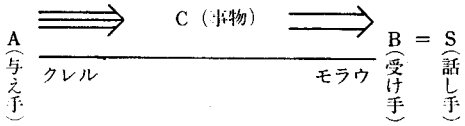


図３で，話し手の視点が与え手側（発出）にあれば，

Ａガ私ニＣヲクレル

となり，話し手の視点が受け手側（受入れ）にあれば

私ガＡニ／カラＣヲモラウ

となる。

話し手自身が与え手の場合の表現形式は，基本的には図１の場合とまったく同じである。しかし，話し手自身が受け手の場合には，与え手の動作は「ヤル」でなく，「クレル」で表現される。

映画の中で用いられた次の表現はこの系列のものである。

話し手自身が与え手で，視点が与え手側（発出）にある場合

課長「㊼井上君にでもやろう。」

（私ガ井上ニ切符ヲヤル）

加藤「㊾花に水をやってきます。」

（私ガ花ニ水ヲヤル）

井上「㊽この切符，やるよ。」

（私ガ高橋ニ切符ヲヤル）

井上「㉒切符は，高橋君にやりました。」

（私ガ高橋ニ切符ヲヤッタ）

高橋「⑪加藤さん，この歌舞伎の切符，よかったら，あげるよ。」

（私ガ加藤ニ歌舞伎ノ切符ヲヤル）

課長「㊹じゃあ，１枚はだれかにあげよう。」

（私ガだれかニ１枚ヲヤル）

課長「㊾この切符，よかったら，あげるよ。」

（私ガあなたニこの切符ヲヤル）

課長「㊿吉田さんに切符あげたんだよ。」

（私ガ吉田ニ切符ヲヤッタ）

加藤「㉛課長にさしあげることにします。」

（私ガ課長ニ切符ヲヤル）

加藤「㉞この切符，よろしかったら，さしあげますが……。」

（私ガ課長ニ切符ヲヤル）

話し手自身が受け手で，視点が受け手側（受入れ）にある場合

加藤「㉑この切符，高橋さんにもらったんだけど，」

（私ガ高橋ニ／カラ切符ヲモラッタ）

加藤「㊴人にもらったんですが，」

（私ガ人ニ／カラ切符ヲモラッタ）

課長「㊵じゃあ，もらいます。」

（私ガあなたに／カラ切符ヲモラウ）

課長「㊽加藤さんにもらったんだが。」

（私ガ加藤ニ／カラ切符ヲモラッタ）

加藤「⑱じゃあ，いただきます。」

（私ガあなたニ／カラ切符ヲモラウ）

井上「㊼はっ，いただきます。」

（私ガ課長ニ／カラ切符ヲモラウ）

吉田「㉒それでは，いただきます。」

（私ガ課長ニ／カラ切符ヲモラウ）

井上「㊷課長にいただいた切符は，」

（私ガ課長ニ／カラモラッタ切符）

話し手自身が受け手で，視点が与え手側（発出にある場合）

井上「㊾山田課長がくれたんだが……。」

（山田課長ガ私ニ切符ヲクレタ）

加藤「㊻あの切符は，けさ，高橋さんがわたしにくださったんです。」

（高橋ガ私ニ切符ヲクレタ）

次の㉒と㊵の場合，受け手は話し手自身ではないが，受け手を話し手側の人物として扱っている。このことについては，後に再度触れる。

田中（加藤に対して）「㉒高橋さんがくれたの？」

（高橋ガあなたニ切符ヲクレタ）

高橋（井上に対して）「㊵山田課長がくれた？」

（山田課長ガ君ニ切符ヲクレタ）

以上の例でみたように，この映画では，当事者発話つまり話し手自身が授受の直接動作に関与している場合の発話が多く扱われている。

3.1.2. 文構造について

授受表現を文の構造的な形からまとめると，次のような三つの文型が抽出される。

文型１　（与え手）ガ（受け手）ニ（授与物）ヲヤル

文型２　（受け手）ガ（与え手）ニ／カラ（授与物）ヲモラウ

文型3　(与え手)ガ(受け手)ニ(授与物)ヲクレル

文型2の「モラウ」の場合には，与え手を示す助詞は「ニ」と「カラ」が使える。この場合「ニ」も「カラ」も事物の移動が行われる出所・出自を示している。文型1の「ヤル」と文型3の「クレル」の場合の助詞「ニ」は動作の対象・相手である受け手を示す。同じ形態であっても文法的意味が異なることに留意しなければならない。文型2で，出所，出自を特に強く意識して表現したい場合や文脈上，誤解を避けようとする時には「カラ」が用いられる。例えば，

〔1〕 山田さんに／から土曜日におみやげにおかしをもらった。

というような場合には，同一助詞の連続使用を避けるために，「山田さんに」は「山田さんから」とするほうが落ち着きのよい文になる。この映画の発話は短いものなので，「カラ」は特に用いていない。

なお，「カラ」は文型1の「ヤル」の場合にも，出所・出自を明示的に表したい場合には用いることがある。例えば，クラスの要望を取りまとめて，クラス委員の山田が担当教師に要望書を手渡したとする。後日，クラス委員数名が教員室に行きその結果をたずねるといった場合には，

〔2〕 先生，先日山田君からさしあげた要望書の件ですが，

と言うだろう。この場合は，山田が要望書の直接の与え手であることを明示したのである。「ニ」を用いると，山田が受け手と理解されることになり，文意が変わってしまう。

また，連体修飾用法では，

〔3〕 母からさしあげた贈り物

〔4〕 母からの贈り物

のように「カラ」を用いる。〔3〕で「ニ」を用いると「母」は与え手でなく受け手になる。

〔4〕は「母から（さしあげた／もらった）贈り物」の両義に解せる。連体修飾用法で，「母」が受け手の場合には，

〔5〕 母への贈り物

となり，この場合「ニノ」の形式はない。「ニノ」は「ヘノ」に変換される。

3.1.3. 移動の方向と話し手の意識

授受表現では，事物の移動の方向と話し手の意識が表現形式に関与し，「ヤル」「クレル」の使い分けがなされる。

三上章（1972）は，「言葉を記号の面から見る時，対象（または概念内容）との対応が一定不変なものと，場面次第で記号を取替えなければならないのとある。後者の記号の持つ性質を境遇性と名づけておく」と述べ，記号の境遇性を有する語としては，代名詞をその典型とし，動詞では「来ル」「行ク」「クレル」「ヤル」の4語を挙げている。三上は，「クレル—話手に向かう物の移転」，「ヤル—それ以外の方向の物の移転」としている。

次の図4により，このことを検討してみよう。

（図4）

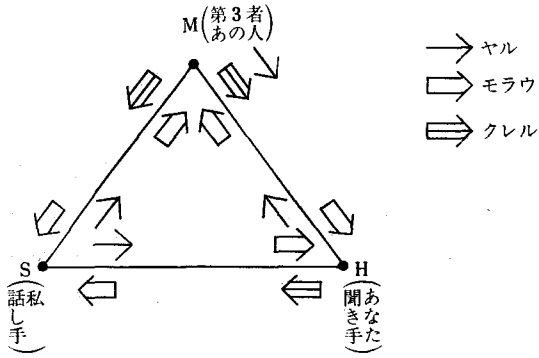


図4で示した関係を文例で示せば次のようになる。授受物は仮りに，話し手Sからは本，聞き手Hからはノート，第3者Mからは鉛筆とする。

ア.（S→M）

〔6〕—ⓐ私はあの人に本をやった。

〔6〕—ⓑあの人は私に（から）本をもらった。

イ.（S→H）

〔7〕—ⓐ私はあなたに本をやった。

〔7〕—ⓑあなたは私に（から）本をもらった。

ウ．（H→M）

〔8〕—ⓐあなたはあの人にノートをやった。

〔8〕—ⓑあの人はあなたに（から）ノートをもらった。

エ．（H→S）

〔9〕—ⓐ私はあなたに（から）ノートをもらった。

〔9〕—ⓑあなたは私にノートをくれた。

オ．（M→S）

〔10〕—ⓐ私はあの人に鉛筆をもらった。

〔10〕—ⓑあの人は私に鉛筆をくれた。

カ．（M→H）

〔11〕—ⓐあなたはあの人に（から）鉛筆をもらった。

〔11〕—ⓑあの人はあなたに鉛筆をくれた。

〔11〕—ⓒあの人はあなたに鉛筆をやった。

図4からは，以上 ア．から オ．までは ⓐⓑ 2種類の文，カ．では ⓐⓑⓒ 3種類の文，合計6方向13種類の文が作例できる。

実際の発話場面で，ⓐⓑあるいはⓒのうち，どの文を用いるかは，文脈ならびに話し手の聞き手・話題の人物に対する関係把握によって決定される。一般的に言えば，授受動作者の文頭提示は，ふつう話し手，聞き手，第3者の順位で行われるのが自然である。しかし，それぞれの発話場面に応じて話題の設定のしかたは異なる。

文例で問題となるのは，カ．（M→H）の場合である。〔10〕—ⓒが不自然に感じられることもあろうが，それは，話し手S，聞き手H，第3者Mの人間関係によるのである。仮りに，Hを話し手の弟，Mを話し手の友人山田とした場合には，

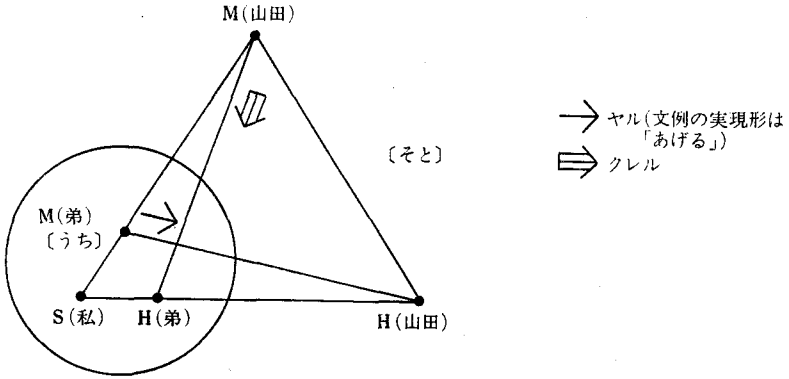
〔11〕′—ⓑ 山田さんはおまえに鉛筆をくれた（んだ）ね。

となるが，Hを友人山田，Mを話し手の弟とした場合には，

〔11〕′—ⓒ 弟はあなたに鉛筆をあげた（んです）ね。

となる。弟は話し手の身内であり，話し手側に属する人物だからである。このことを図で示せば次のようになる。

（図５）



（図５）における話し手の対人意識は「うち」と「そと」の関係にある。移動の方向が「うち」から「そと」の場合には「ヤル」を用い「そと」から「うち」の場合には「クレル」を用いる。なお，「モラウ」は「そと」から「うち」への移動である。

この映画の㉒田中が加藤に「高橋さんがくれたの？」という発話では，田中（女性）が目下の加藤（女性）を「うち」側の人物として把え，男性の加藤を「そと」の人物として遇している。異性の行為を同性同士が内輪話として発話しているのである。また，男性課員井上，高橋のやりとり㊾，㊿の「山田課長がくれた」も，お互いを「うち」の立場で，課長を「そと」の人物として意識しているのである。

3.1.4. 待遇度

待遇表現については，解説書29課，30課で扱うので，ここでは，授受動詞に関する若干の問題について簡単に触れるにとどめる。

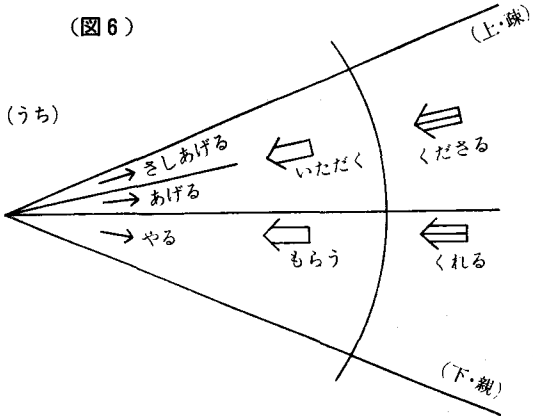
授受動詞７語の待遇度は，ほぼ次表のとおりである。

系列＼待遇度	低	中	高
（ヤル）	やる	あげる	さしあげる
（モラウ）	もらう	いただく	
（クレル）	くれる	くださる	

待遇度は，人（年齢・性別・地域）により，あるいは場合（フォーマル・インフォーマル）により感じ方が異なるであろう。「やる・もらう・くれる」を普通の言い方，あるいは中立的な言い方，「あげる・いただく・くださる」を丁寧な言い方，「さしあげる」を特別丁寧な言い方と感じる人もあろうし，「やる」を乱暴な言い方，「あげる・もらう・くれる」を普通の言い方，「さしあげる・いただく・くださる」を丁寧な言い方と感じる人もあろう。待遇度意識として（ヤル）系列は，表の左から右へ次第に移動してきているようである。特に女性は「ヤル」は乱暴な言い方で使えないと意識している人が多い。非丁寧（普通）な言い方と丁寧な言い方の二つに分けるとすれば，「やる・もらう・くれる」が前者で，「さしあげる・いただく・くださる」が後者，「あげる」はその中間に位置すると言えよう。

授受動詞の待遇度を，移動の方向，「うち・そと」意識，上下親疎の三つの観点から模式図に示せば（図６）のようになる。

（図６）



一般に用いられる敬語の3分類，尊敬語・謙譲語・丁寧語に従えば，「くださる」が尊敬語で，「あげる」「さしあげる」「いただく」は謙譲語である。問題となるのは「あげる」の用法である。「あげる」は本来，謙譲語であるが，最近は，

〔12〕 金魚に餌をあげる

〔13〕 妹に指輪をあげる

などの言い方が使われるようになった。特に女性の間で，このような言い方が多いようである。この言い方は，謙譲語としての本来の用法から言えば誤用であるとすべきだが，現実には日常よく用いられるようになってきている。使用者の意識には，上品に丁寧に言いたいという気持がある。辻村敏樹(1967)は素材を美化する言葉として「美化語」を設けたが，「あげる」のこのような用法も，謙譲語の美化語への転用と考えられる。「いただく」も本来謙譲語であるが，「食べる」の意味で，母親が子供に「早くいただきなさい」などと言うのも美化意識の現れと言えよう。

この映画では，「㊾花に水をやってきます」のように「やる」の基本的な用法を提示し，美化語転用の「あげる」は排除している。

動詞を尊敬語化する言い方に「お（連用形）になる」の形式があるが，この形式が使えるのは授受動詞7語の中では「やる」「もらう」「あげる」の3語である。例えば，

〔14〕 早くお嫁さんをおもらいになったら……。

などの言い方がある。ふつうはあまりこの形式は使わないが，〔14〕の場合，男性が結婚することを慣用的表現で「嫁をもらう」と言い，「嫁をいただく」とは言わないからである。ただし，男性の親が，相手の親に申し入れる場合などには，

〔15〕 お嬢さんを息子の嫁にいただきたい。

のように，謙譲語「いただく」を用いて言う。

なお，音声上注意すべき語は「くださる」である。「くださる」の連用形が「ます」に続く形は，kudasari-masu であるが，「r」が脱落して，「くだ

さいます」となる。「r」を脱落させずに「くださります」と言うと，非常に改まった感じが強く，丁重さと固さを与える。書き言葉や改まった表現で多く用いる連用中止法では，「書籍を御寄贈くださり，」のように「r」は脱落させない。

参考のために，以上述べた「やり，もらい動詞」の用法を，「授受表現の類型的特徴一覧」として次の表にまとめておく。

授受表現の類型的特徴一覧（やり・もらい動詞の用法）

条件 ＼ 動詞	授受者							授受物	待遇・敬意				移動の方向	
	話し手の視点		文構造											
	与え手側（発出）	受け手側（到入）	（ガ格）		（ニ格）		（カラ格）	（ヲ格）	尊敬	謙譲	丁寧（美化）	中立	「そと」から「うち」へ	「うち」から「そと」へ
			与え手	受け手	与え手	受け手	与え手							
1 ヤル	○		○			○		○				○		○
2 モラウ		○		○	○		○					○	○	
3 クレル	○		○			○						○	○	
4 アゲル	○		○							○	○			○
5 サシアゲル	○		○							○				○
6 イタダク		○		○	○		○			○			○	
7 クダサル	○		○			○			○				○	

3.2. あいさつ等の表現(1)

「あいさつ」は漢字では「挨拶」と書く。『角川漢和中辞典』によれば，「挨」は，「ひらく，おしひらく，おす，せまる，強く進む，たがいにちかづく，ひっつく」の意で，「拶」は，「せまる」の字義を有し，「挨拶」とは「押し進む，また，前にあるものを押しのけて進み出る」の意だという。『広辞苑』（第2版）は，仏教用語として禅家で「門下の僧に問答して，その悟道・知見の深浅を試みること」の意を挙げている。現在は，一般に人と会った時にとりかわす儀礼的な動作・言葉，応待の意で用いる。日常生活で使う朝晩のあいさつ，手紙の冒頭に用いる表現などがこれである。また，広義では，会合や儀式のスピーチ，挨拶状などを指す場合もある。

ここでは，この映画に取り扱われたいくつかの「あいさつ語」について簡

単に解説する。

3.2.1. その日，初めて人と顔を合わせた時

加藤「⑥高橋さん，おはようございます。」

高橋「⑦やあ，おはよう。

⑧きょうは寒いね。」

加藤「⑨ええ，とても。」

女性社員が同じ会社の先輩男性社員とエレベーター・ホールで会った時の朝のあいさつである。

「おはよう（ございます）」は，その日，初めて顔を合わせた時に言う。日中，昼前から夕刻までにかけては「こんにちは」，夕方から夜分には「こんばんは」を使う。「こんにちは／こんばんは」は，「今日は／今晩はいかがですか／よいお天気ですね」などの下略表現が習慣化したものだと言われる。朝のあいさつは，対話者の上下親疎などその立場に応じ，短縮形「おはよう」と，より丁寧な非短縮形「おはようございます」の二つの表現形が使い分けられる。「こんにちは」「こんばんは」には丁寧な表現形はない。あいさつ語は，表現の習慣化により形式が定型化しているのが特徴である。

「おはよう（ございます）」は，家庭内でも家庭外でも用いられるが，「こんにちは」「こんばんは」は，家庭内の家族間で用いることはない。「おはようございます／こんにちは／こんばんは」は，人と会った時のほかに，「ごめんください」と同様，他家を訪問し，家人を呼び出す時のあいさつ語としても用いる。

人と会った時のあいさつでは，「⑧きょうは寒いね」のように，その日の天候や寒暖について言うことが多い。「きょうは，寒い／暖かい／暑い／涼しい（です）ね」とか，「お寒うございますね」「寒くなりましたね」「いいお天気ですね」「よく降りますね」など，その日の状況や相手によっていろいろな言い方をする。

3.2.2. 「失礼します」の用法

「失礼します」は，種々の場面，状況で用いられる。この映画の場面V—1での用い方は次のようである。

加藤「㉜課長，ちょっと失礼します。」

課長「㉝うん。」

課長は事務室で新聞を読んでいる。そこへ課員の加藤が入ってくる。その時のあいさつである。「失礼します」は，礼儀に反すると思うことを行わざるを得ぬ時，または非礼を相手に詫びる時に言うのが本来の用法である。そのような行為を行ってしまった時には「失礼しました」と言う。例えば，劇場の座席にかけている人の前を通る時には，「(ちょっと前を) 失礼します」と言い，通り終わったら「(前を) 失礼しました」と言う。また，他人の会話の途中で，口をはさむ場合とか，一時中座する場合などには，「(ちょっと) 失礼します」と言い，用事の済んだ時や席に戻った時には，「失礼しました」と言う。

㉜の「ちょっと失礼します」には，課長が新聞を読んでいるのを中途で邪魔して申しわけないという意識が話し手にある。このような気持を込めて，相手の注意を喚起する機能をこの表現は有している。

なお，他人の部屋に入る時には，無断の入室が非礼となる場合はもちろん，招じ入れられた場合にも，「失礼します」と言い，その人の部屋から退出する時には「失礼しました」と言うのが礼儀である。

一般に人と別れる時には「さよ（う）なら」が用いられるが，これは永い別離や改まりの席で使われることが多い。くだけた席や親しい間柄で，近い再会が予期される場合には，「じゃあ，また」「じゃあね」などと言う。相手に辞去を乞う意味での別れの表現としては「(では) 失礼します」がよく用いられる。相手に迷惑をかけたという気持がある時には，「(お忙しいところ) 失礼しました」と言って辞去することもある。この映画の場面XIIでは，

課員A「㊸お先に失礼します。」

課員B「㊹お先に。」

のように用いられている。これは，会社退出時に，居残っている人に対するあいさつである。先に帰宅して申しわけないという気持がうかがえる。丁寧に言う場合には「失礼いたします／いたしました」が用いられる。

あいさつ表現は，「表現意図に対応する文表現の類別」（国立国語研究所報告23 ）では，コミュニケーションの成立そのものに関する表現意図，よびかけ，わかれなどの表現に属する。つまり，相手に対する接触，コミュニケーション・ネットワークの設定を意図するもので，実質的なコミュニケーションの内容に関する意図は有していない。場合によっては，敵対心のないこと，相手に危害を加える意図のないことを示す機能をもって使われることもある。山中で見知らぬ者同士がたまたま出会った際にかわすあいさつは，同じ行動集団に属する者が親密感を表示するためにするものであろうが，本来は相手の不安を除く機能を有していたものであろう。

あいさつ表現については，種々の形式があるが，すべて第27課の解説「あいさつ表現(2)」で扱う。

3.3. 男ことばの問題(1)

言語主体の所属環境や言語使用場面等により，言葉が異なったすがたを生じる現象を位相と言う。そのような位相が認められる語を位相語と称する。男性語，女性語は性差による位相語である。また，同一人物が話し相手や場面によって異なった語や語法を用いることもある。待遇表現などはその典型である。

ここでは，この映画の中で用いられた切符の授受という同一内容が話し手や場面によって，どのように異なった表現で示されているか，位相的な変化を見てみる。なお，自称詞，応答語等に見られる男女差については，第27課の解説を参照されたい。

この映画で，歌舞伎の切符を相手に直接与える場合の表現では，次のような言い方が用いられている。

高橋（加藤に）「⑪加藤さん，この歌舞伎の切符，よかったら，あげるよ。」（場面Ⅱ－2）

加藤（課長に）「㉞この切符，よろしかったら，さしあげますが……。」（場面Ⅴ－1）

課長（吉田に）「㊾この切符，よかったら，あげるよ。」（場面Ⅸ－2）

井上（高橋に）「㊽この切符，やるよ。」（場面Ⅹ）

⑪は，男性課員から年下の女性課員へ，㉞は，女性課員から年上上司の男性課長へ，㊾は，年上上司の男性課長から年下の女性課員へ，㊽は，男性課員から同年齢の同僚男性課員への発話である。ここでは，表現の丁寧度を仮りに，「よろしかったら，さしあげますが……」—A，「よかったら，あげるよ」—B，「やるよ」—Cの3段階に分け，話し手と相手との関係を表にまとめると次のようになる。

発話番号	丁寧度	話し手（与え手）		開き手（受け手）	
		性別	年齢地位	性別	年齢地位
㉞	A	女	下位	男	上位
⑪	B	男	上位	女	下位
㊾	B	男	上位	女	下位
㊽	C	男	同位	男	同位

この表から，同一の意味内容を表す「やる」「あげる」「さしあげる」の3種の異なった表現には，単に上位下位という要素だけでなく，男女という性差が大きく関与しているということが言える。話し手と聞き手の関係には，この外，親疎・利害・発話環境・時間的条件など種々の要因が複雑にからんで，その表現様式を規制するので，一概に決めるわけにはいかないが，ここでは，性差による社会的集団意識が，表現の異なりを生じた基底に関与したことは否めない。

男女の発話で表現が異なる現象は，前節で触れた「あげる」の美化語的用

法の発達にも見られる。また，次の例のように，授与対象の特定，不特定によっても表現を異にする場合がある。

課長（聞き手加藤）「㊹じゃあ，1枚はだれかに　あげよう。」（場面V－2）

課長（独白的に）「㊼井上君にでもやろう。」（場面V－2）

㊹は，男性課長と部下の女性課員の会話で，授与者未決定の場合である。この場合「だれかにやろう」とも言えるが，授与物である切符は眼前で対話している女性課員から受け取ったものなので，「やろう」を用いると丁寧さに欠ける言い方になる。男性が受け手不特定の場合に「さしあげる」を用いると馬鹿丁寧な感じを与える表現となる。㊼は，男性部下課員「井上君」が特定されており，しかも男性の独白的発話である。この場合「あげる」「さしあげる」を用いると適格性を欠くことになる。

4. 練習問題

4.1. 導入と練習の与え方

授受表現の導入や練習に際しては，授受者（与え手，受け手），場面，授与物等を学習者が明確に理解できるように配慮しておくことが大切である。導入に際しては，まず具体的な場面を設定し，理論的な説明は後にするほうがよい。現実の場面を利用し，教師と学習者，学習者同士の間で実際に事物のやりとりを行い，その動作に則して教師がモデルを発話して聞かせ，続いて学習者自身に授与行為をさせながら発話させるのが効果的である。手順としては，「あげる」「もらう」2語の基本的用法をまず提示する。「あげる」「もらう」の用法が定着してから，次に同一場面で同一動作を行い「くれる」の用法を提示する。

例えば，学習者Aに指示して，学習者Bに鉛筆を与えさせる。教師が「Aさんは，Bさんに鉛筆をあげました」と言い，Aを指名し，Aに「わたしはBさんに鉛筆をあげました」と言わせる。次に教師が「Bさんは，Aさんに鉛筆をもらいました」と言い，Bを指名し，Bに「わたしはAさんに鉛筆を

もらいました」と言わせる。授受物を変えて，同様の動作を学習者BからCに行わせ，同様の発言を順次させる。一通り，動作と発言が終わった段階で，「Aさんはだれに鉛筆をあげましたか」「AさんはBさんに何をあげましたか」「だれがBさんに鉛筆をあげましたか」等の応答を行う。「Bさんは何をもらいましたか」「だれにもらいましたか」等，同様の応答をくりかえし，「あげる」「もらう」の用法の理解定着をはかる。次に，最初に行った動作にもどり，AからBに鉛筆を与えさせ，Bに「わたしは，Aさんに鉛筆をもらいました」と再度言わせる。そこで教師は，「Aさんは？」とBに問いかけ，Bの発言「Aさんはわたしに鉛筆をくれました」を引き出す。教師がモデルになって，「わたしはDさんに万年筆をもらいました」「Dさんはわたしに万年筆をくれました」のように提示してもよい。学習者一人一人に同様の発話をくりかえさせながら，応答を行い，「くれる」の用法を理解定着させる。手順をあやまると混乱をひきおこすので，一つずつ確実に理解定着させ，スムーズな発話ができるまで次の段階には進まぬように留意しなければならない。動作をともなった口頭による「あげる」「もらう」「くれる」の導入，練習が終わってから，授受者と授受の方向を黒板などに図示したり，文型を板書したりして説明する。次の段階で，教師対学生，大使対学生など上位者と下位者の場面を設定し，「さしあげる」「いただく」「くださる」の用法を同様の手法，手順で導入，練習する。「やる」の用法は，別に扱うほうが指導しやすいであろう。口頭による練習が終わってから，文字表記による文例や練習問題を与えると効果的である。

練習問題例の若干を以下に示す。

4.2. 「あげる」「もらう」「くれる」の基本的用法に関する練習問題例

(1) 次の文の（　）の中に，「あげる」「もらう」「くれる」の語から適当なものを選んで入れなさい。

きのうは高橋さんの誕生日でした。友だちは，いろいろなおくりものをしました。

山田さんは高橋さんにネクタイを（　　）ました。
中村さんは高橋さんに万年筆を（　　）ました。
井上さんは高橋さんにケーキを（　　）ました。
高橋さんは山田さんにネクタイを（　　）ました。
高橋さんは中村さんに万年筆を（　　）ました。
高橋さんは井上さんにケーキを（　　）ました。
山田さんはわたしにネクタイを（　　）ました。
中村さんはわたしに万年筆を（　　）ました。
井上さんはわたしにケーキを（　　）ました。

(2) 次の文の（　）の中に「あげる」「もらう」「くれる」の語から適当なものを選んで入れなさい。

① 山田さんがわたしに（　　）ネクタイはこれです。
② 山田さんから（　　）ネクタイはこれです。
③ 高橋さんはわたしが（　　）ネクタイをしめています。

(3) 次の文を〔例〕のように言いかえなさい。

〔例〕 山田さんは高橋さんにネクタイをあげました。
→高橋さんは山田さんにネクタイをもらいました。

① 中村さんは高橋さんに万年筆をあげました。
② 井上さんは高橋さんにケーキをあげました。
③ 中村さんはわたしにネクタイをくれました。
④ 井上さんはわたしにケーキをくれました。
⑤ わたしは中村さんに万年筆をもらいました。
⑥ わたしは井上さんにケーキをもらいました。

4.3. 「さしあげる」「いただく」「くださる」の用法に関する練習問題例

(1) 次の文の（　）の中に「さしあげる」「いただく」「くださる」の中から適当な語を選んで入れなさい。

きのうは先生の誕生日でした。わたしたちは先生におくりものをしました。

山田君は先生にネクタイを（　　）ました。

わたしは先生に万年筆を（　　）ました。

先生はわたしたちにケーキを（　　）ました。

先生から（　　）ケーキをみんなでわけました。

(2) 次の文中の「山田さん」を「大使」「弟」に変えて，〔例〕のように言いかえなさい。

〔例〕 わたしは山田さんに万年筆をあげました。

→わたしは大使に万年筆をさしあげました。

→わたしは弟に万年筆をやりました。

① わたしは山田さんにネクタイをあげました。

② わたしは山田さんにライターをもらいました。

③ 山田さんはわたしにライターをくれました。

4.4. 映画の場面を使っての練習例

(1) この映画では，歌舞伎の切符を人にあげる時，どのように言っていますか。次の会話の下線の部分に「やる」「あげる」「さしあげる」の中から適当な言葉を選んで入れなさい。切符をあげる人ともらう人はどんな関係ですか。役割を決めて会話の練習をしなさい。

① （場面Ⅱ—2，⑩～⑬）

高橋「ああ，そうだ。加藤さん，この歌舞伎の切符＿＿＿＿よ。」

加藤「いつのですか。」

高橋「きょうのだよ。」

② （場面Ⅴ—1，㉞～㊱）

加藤「この切符，よろしかたら，＿＿＿＿＿＿＿が……。」

課長「ほう，歌舞伎だね。今日のか。」

③ （場面Ⅸ—2，㊽～㊿）

課長「そうだ。この切符，よかったら，＿＿＿＿よ。」

吉田「ええ……。」

④ （場面Ⅹ，(76)～(79)）

井上「ところで，今夜，用事あるかい。」

高橋「うん……？」

井上「この切符，＿＿＿＿よ。山田課長がくれたんだが。」

(2) この映画では，歌舞伎の切符を人からもらった時，どのように言っていますか。次の会話の下線の部分に「もらう」か「いただく」どちらかの言葉を入れなさい。あげた人ともらった人はどんな関係ですか，役割を決めて会話の練習をしなさい。

① （場面Ⅱ—2，⑭～⑲）

加藤「あら，2枚も？　いいんですか。」

高橋「うん。いらなくなったから……。」

加藤「じゃあ，＿＿＿＿＿＿。どうもありがとうございます。」

② （場面Ⅴ—1，㉟～㊵）

課長「ほう，歌舞伎だね。今日のか。2枚あるね。」

加藤「ええ。人にもらったんですが，急に行けなくなってしまったんです。」

課長「じゃあ，＿＿＿＿＿。」

③ （場面Ⅶ，㊷～㊼）

課長「井上君，今夜なにか用事がある？」

井上「いえ，なにもありませんが。」

課長「歌舞伎に行かないか。」

井上「ああ，いいですね。」

課長「はい。」

井上「はっ。＿＿＿＿＿。」

以上，若干の練習問題例を示したが，練習は，学習者の理解度，定着度に合わせ適当な問題を与えることが大切である。

5. 参考文献（第26巻，第27巻共通）

林　八龍（イム・パルヨン），1980，「日本語・韓国語の受給表現の対照研究」『日本語教育』40号

上野田鶴子，1978，「授受動詞と敬語」『日本語教育』35号

大江三郎，1975，「日本語の授受動詞『やる』『くれる』『もらう』」『日英語の比較研究—主観性をめぐって』，南雲堂

大曽美恵子，1983，「授動詞文とニ名詞句」『日本語教育』50号

岡野喜美子，1972，「受給表現の扱い方」『講座日本語教育』第8分冊

奥津敬一郎・徐昌華，1982，「『～てもらう』とそれに対応する中国語表現—"请"を中心に—」『日本語教育』46号

奥津敬一郎，1983，「授受表現の対照研究—日・朝・中・英の比較—」『日本語学』第2巻第4号

久野　暲，1978，『談話の文法』，大修館書店

江田すみれ，1983，「『てやる・てくれる・てもらう』とタイ語の表現—hâi の用法に注目して—」『日本語教育』49号

国立国語研究所，1972，『動詞の意味用法の記述的研究』，秀英出版

————，1960，『話しことばの文型(1)—対話資料による研究—』，秀英出版

————，1963，『話しことばの文型(2)—独話資料による研究—』，秀英出版

佐久間　鼎，1983，『現代日本語の表現と語法〈増補版〉』，くろしお出版

柴谷方良，1978，『日本語の分析』，大修館書店

鈴木重幸，1972，『日本語文法形態論』，麥書房

鈴木丹士郎，1972，「動詞の問題点」『品詞別日本文法講座3　動詞』，明治書院

辻村敏樹，1967，『現代の敬語』，共文社

————，1987，『敬語の史的研究』，東京堂出版

寺村秀夫，1982，『日本語のシンタクスと意味』第1巻　くろしお出版

豊田豊子，1974，「補助動詞『やる・くれる・もらう』について」『日本語学

校論集』1号
正宗美根子，1978，「日本語の待遇表現の一考察」『Annual Reports』Vol. 3
三上　章，1972，『現代語法序説』，くろしお出版
水谷信子，1985，『日英比較話しことばの文法』，くろしお出版
森田良行，1977，『基礎日本語』，角川書店
————，1981，『日本語の発想』，冬樹社
山下秀雄，1975，「『場』の設定（その2）」『日本語教育研究』第11号
————，1986，『日本のことばとこころ』，講談社

＜あいさつ語・呼びかけ語関係＞

奥山益朗，1970，『あいさつ語辞典』，東京堂出版
金田一秀穂，1986，「会話論ノート1・『あいさつ』考」『月刊言語』第15巻第12号
鈴木孝夫，1973，『ことばと文化』，岩波書店
水谷　修，1979，『日本語の生態』，創拓社
南不二男，1974，『現代日本語の構造』，大修館書店
『言語生活』特集：第196号「あいさつ」（1968. 1），第348号「きまり文句」（1980. 12），第363号「わかれのことば」（1982. 3），筑摩書房
『月刊言語』特集：第10巻第4号「あいさつの言語学」（1981. 4），大修館書店

資　料

資料1.　使用語彙一覧

これは，この映画中に言語表現として現れた全ての語について一覧表にしたものである。資料2.のシナリオ全文同様，教材として活用できることも考慮してかな（ひらがな，かたかな）書きにしてある。

1.　見出し語はアイウエオ順に配列し，そこにその使用文例を全て書き出した。

2.　見出し語の認定については，初級日本語教育の立場に立っている。

2.—1.　接頭語「お」「ご」や，接尾語「さん」「くん(君)」等は，見出し語として取り上げている。ただし，「おねがい（お願い)」等は，そのまま見出し語に立てている。

2.—2.　数詞は，助教詞と切り離して見出し語に立てている。

2.—3.　動詞は，終止形を見出し語にしている。サ変複合動詞は，「する」を切り離して二語扱いにしている。

2.—4.　「いい」「よい」は同一見出し語のもとに取り扱っている。

2.—5.　形容動詞は，「＿＿な」の形を見出し語にしている。

2.—6.　「だ」「です」に前接する「ん」は，一語扱いにして見出し語にしている。

2.—7.　「おさきに」等，慣用的表現として扱ったものは，見出し語にしている。

2.—8.　助動詞「た」や接続助詞「て」は，ここでは動詞部分に含め見出し語にしていない。ただし，助詞「たら」は，動詞部分から切り離し，見出し語に立てている。

2.—9.　「う」「よう」は同一見出し語のもとに取り扱っている。

3.　見出し語の語義，活用変化，他の語との結びつき等に基づいて下位分類する場合には，(1)(2)……のようにした。

3.—1.　動詞は，本動詞としての用法と補助動詞としての用法で大きく二分した。本動詞の場合は「ます」形であるか，「——て」等の形で

あるかで下位分類し，補助動詞が違えばさらに下位分類してある。また常体での言い方は，一語扱いにして別の分類にした。

3.—2. 「だ」「です」は，それに伴う終助詞の種類，また「だ」「です」に「ん」が前接するかどうか等により下位分類してある。

3.—3. 助詞「か」「が」「に」「の」等は，その意味・用法によって下位分類してある。

4. 「ます」については，文例の列挙を省略し，文番号だけを示した。

5. 使用文例の文頭には，①②……の数字がつけてある。これはシナリオでの文通し番号であり，この解説書全体に共通のものである。同一見出し語内では，この順に文例を提出した。(1)(2)……と下位分類した場合にも，その分類内で同一の提出順をとっている。全くの同一文については通し番号を横に並べ，引用を一回ですませた。

6. 見出し語の横には〔　〕で常用漢字の範囲内で漢字を示し，またその横には（　）で語の使用回数を示した。

あ(1)

㉓ **あ**，きょうのね。

ああ（あー）(7)

(1)⑩ **ああ**，そうだ。

㊺ **ああ**，いいですね。

㊾ **ああ**，そうですか。

㊸ **ああ**，ありがとう。

㊺ **ああ**，きゅうに，しごとが　できてね。

㊷ **ああ**，かちょうに　いただいた　きっぷは，たかはしくんに　やりました。

(2)㊽ **あー**，ざんねんだけど，しごとが　できて　しまって……。

あげる(6)

(1)㊷ それでは，だれかに　**あげて**　ください。

(2)⑪ かとうさん，この　かぶきの　きっぷ，よかったら，**あげる**よ。

㊾ この　きっぷ，よかったら，**あげる**よ。

(3)㊿ それで，よしださんに　きっぷ　**あげた**んだよ。

㊹ たかはしさんに　**あげた**んですか。

(4)㊹ じゃあ，いちまいは　だれかに　**あげ**よう。

あした(1)

⑤ **あした**の　きっぷ，どう　するの。

あっ(4)

⑳ **あっ**。

㉗ **あっ**，そうだ。

㊽ **あっ**，わすれて　いた。

㊿ **あっ**，そうね。

あの(3)

㊶ いのうえくんは　**あの**　きっぷ　どう　した？

㊻ **あの**　きっぷは，けさ，たかはしさんが　わたしに　くださったんで

す。

㊽　じゃあ，**あの**　きっぷは……。

あら(1)

⑭　**あら**，にまいも？

あらー(1)

㊻　**あらー**？

ありがとう(4)

⑲　どうも　**ありがとう**ございます。

㊻　**ありがとう**。

㊸　ああ，**ありがとう**。

㊸　**ありがとう**ございます。

ある(4)

(1)㊸　いえ，なにも　**あり**ませんが。

(2)㊼　にまい　**ある**ね。

㊷　いのうえくん，こんや，なにか　ようじが　**ある**？

㊻　ところで，こんや，ようじ　**ある**かい。

いい（**よい**〔良い〕）(5)

(1)⑮　**いい**んですか。

㊺　ああ，**いい**ですね。

㊶　だけど，ぼくは，いちまいだけで　**いい**な。

(2)⑪　かとうさん，この　かぶきの　きっぷ，**よかっ**たら，あげるよ。

㊾　このきっぷ，**よかっ**たら，あげるよ。

いう〔言う〕(1)

②　そんな　こと　**いっ**ても……。

いえ(1)

㊸　**いえ**，なにも　ありませんが。

いく〔行く〕(2)

(1)㉕　だれか　**いく**　ひと，いないでしょうか。

(2)㊹　かぶきに　**いか**ないか。

いける〔行ける〕(3)

㉑　この　きっぷ，たかはしさんに　もらったんだけど，**いけ**なく　なってしまったんです。

㊴　ひとに　もらったんですが，きゅうに　**いけ**なく　なって　しまったんです。

㉑　いそがしく　なって，**いけ**なく　なって　しまったんだ。

いそがしい〔忙しい〕(1)

㉑　**いそがしく**　なって，いけなく　なって　しまったんだ。

いただく(4)

(1)⑱　じゃあ，**いただき**ます。

㊼　はっ，**いただき**ます。

㉒　それでは，**いただき**ます。

(2)㉒　ああ，かちょうに　**いただいた**　きっぷは，たかはしくんに　やりました。

いち〔一〕(2)

㊹　じゃあ，**いち**まいは　だれかに　あげよう。

㊶　だけど，ぼくは，**いち**まいだけで　いいな。

いつ(1)

⑫　**いつ**のですか。

いのうえ〔井上〕(3)

㊼　**いのうえ**くんにでも　やろう。

㊷　**いのうえ**くん，こんや，なにか　ようじが　ある？

㊶　**いのうえ**くんは　あの　きっぷ　どう　した？

いやな(1)

①　ぜったいに，**いや**よ。

いる(1)

⑰　**いら**なく　なったから……。

いる(2)

(1)㉕　だれか　いく　ひと，**い**ないでしょうか。

(2)㊽　あっ，わすれて　**いた**。

う（よう）(2)

(1)㊼　いのうえくんにでも　やろ**う**。

(2)㊹　じゃあ，いちまいは　だれかに　あげ**よう**。

うん(6)

(1)⑯，㉝，㉛，㉟　**うん**。

　㉕　**うん**，わかった。

(2)㉗　**うん**……？

ええ（えー）(6)

(1)㉔，㊳　**ええ**。

(2)⑨　**ええ**，とても。

　㊺　**ええ**，どうぞ。

(3)㉚　**ええ**……。

(4)㊸　**えー**？

えっ(1)

　㊼　**えっ**，たかはしくんに　もらったの？

おさきに〔お先に〕(2)

　㉝　**おさきに**　しつれいします。

　㉞　**おさきに**。

おねがい〔お願い〕(1)

　㊶　**おねがい**するわ。

おはよう(2)

　⑥　たかはしさん，**おはよう**ございます。

　⑦　やあ，**おはよう**。

か(10)

(1)⑫　いつのです**か**。

⑮　いいんです**か**。

㉕　だれか　いくひと，いないでしょう**か**。

㊻　コピーを　とりましょう**か**。

㊹　たかはしさんに　あげたんです**か**。

(2)㊹　かぶきに　いかない**か**。

(3)㊵，㊾　そうです**か**。

㊱　きょうの**か**。

㊾　ああ，そうです**か**。

が(13)

(1)㉒　たかはしさん**が**　くれたの？

㊾　やまだ　かちょう**が**　くれたんだが……。

㊵　やまだ　かちょう**が**　くれた？

㊻　あの　きっぷは，けさ，たかはしさん**が**　わたしに　くださったんです。

(2)㊷　いのうえくん，こんや，なにか　ようじ**が**　ある？

㊺　ああ，きゅうに，しごと**が**　できてね。

㊽　あー，ざんねんだけど，しごと**が**　できて　しまって……。

(3)㉙　かぶき**が**　とても　すきだそうよ。

(4)㊾　ひとに　もらったんです**が**，きゅうに　いけなく　なって　しまったんです。

(5)㊹　この　きっぷ，よろしかったら，さしあげます**が**……。

㊸　いえ，なにも　ありません**が**。

㊽　かとうさんに　もらったんだ**が**。

㊾　やまだ　かちょうが　くれたんだ**が**……。

かい(2)

㊸　そう**かい**。

㊻　ところで，こんや，ようじ　ある**かい**。

かえる〔帰る〕(1)

③ わたし，**かえる**。

かちょう〔課長〕(7)

(1)㉘ **かちょう**さんに　さしあげたら，どう。

㉛ じゃあ，**かちょう**に　さしあげる　ことに　します。

㊾ やまだ　**かちょう**が　くれたんだが……。

㊿ やまだ　**かちょう**が　くれた？

(92) ああ，**かちょう**に　いただいた　きっぷは，たかはしくんに　やりました。

(2)(82) **かちょう**，ちょっと　しつれいします。

(87) **かちょう**，かぶきには？

かとう〔加藤〕(2)

⑪ **かとう**さん，この　かぶきの　きっぷ，よかったら，あげるよ。

(58) **かとう**さんに　もらったんだが。

かぶき〔歌舞伎〕(5)

⑪ かとうさん，この　**かぶき**の　きっぷ，よかったら，あげるよ。

㉙ **かぶき**が　とても　すきだそうよ。

㉟ ほう，**かぶき**だね。

(54) **かぶき**に　いかないか。

(87) かちょう，**かぶき**には？

から(2)

⑰ いらなく　なった**から**……。

(61) わたしは，こっちを　する**から**。

きっぷ〔切符〕(11)

⑤ あしたの　**きっぷ**，どう　するの。

⑪ かとうさん，この　かぶきの　**きっぷ**，よかったら，あげるよ。

㉑ この　**きっぷ**，たかはしさんに　もらったんだけど，いけなく　なって　しまったんです。

㉔ この**きっぷ**，よろしかったら，さしあげますが……。

㊾ この **きっぷ**，よかったら，あげるよ。

㊽ この **きっぷ**，やるよ。

㊿ それで，よしださんに **きっぷ** あげたんだよ。

(91) いのうえくんは あの **きっぷ** どう した？

(92) ああ，かちょうに いただいた **きっぷ**は，たかはしくんに やりました。

(96) あの **きっぷ**は，けさ，たかはしさんが わたしに くださったんです。

(98) じゃあ，あの **きっぷ**は……。

きゅうに〔急に〕(2)

(39) ひとに もらったんですが，**きゅうに** いけなく なって しまったんです。

(65) ああ，**きゅうに**，しごとが できてね。

きょう(5)

(8) **きょうは**，さむいね。

(13) **きょう**のだよ。

(23) あ，**きょう**のね。

(36) **きょう**のか。

(60) じゃあ，**きょう**じゅうに たのむよ。

ください(1)

(42) それでは，だれかに あげて **ください**。

くださる(1)

(96) あの きっぷは，けさ，たかはしさんが わたしに **くださった**んです。

くる〔来る〕(1)

(49) はなに みずを やって **き**ます。

くれる(3)

(22) たかはしさんが **くれた**の？

㊾　やまだ　かちょうが　**くれた**んだが……。

㊿　やまだ　かちょうが　**くれた**？

くん〔君〕(5)

㊼　いのうえ**くん**にでも　やろう。

㊷　いのうえ**くん**，こんや，なにか　ようじが　ある？

㊶　いのうえ**くん**は　あの　きっぷ　どう　した？

㊷　ああ，かちょうに　いただいた　きっぷは，たかはし**くん**に　やりました。

㊼　えっ，たかはし**くん**に　もらったの？

けさ(1)

㊻　あの　きっぷは，**けさ**，たかはしさんが　わたしに　くださったんです。

けど(2)

㉑　この　きっぷ，たかはしさんに　もらったんだ**けど**，いけなく　なって　しまったんです。

㊽　あー，ざんねんだ**けど**，しごとが　でききて　しまって……。

ご〔五〕(1)

㊹　これ，**ご**じはんまでに　たのむよ。

ございます(3)

⑥　たかはしさん，おはよう**ございます**。

⑲　どうも　ありがとう**ございます**。

㊸　ありがとう**ございます**。

こっち(1)

㊶　わたしは，**こっち**を　するから。

こと(2)

②　そんな　**こと**　いっても……。

㉛　じゃあ，かちょうに　さしあげる　**こと**に　します。

この(5)

⑪　かとうさん，**この**　かぶきの　きっぷ，よかったら，あげるよ。

㉑　**この**　きっぷ，たかはしさんに　もらったんだけど，いけなく　なって　しまったんです。

㉞　**この**　きっぷ，よろしかったら，さしあげますが……。

㊾　**この**　きっぷ，よかったら，あげるよ。

㊽　**この**　きっぷ，やるよ。

コピー(1)

㊻　**コピー**を　とりましょうか。

これ(2)

㊼　じゃあ，**これ**を　たのむ。

㊹　**これ**，ごじはんまでに　たのむよ。

こんや〔今夜〕(2)

㊷　いのうえくん，**こんや**，なにか　ようじが　ある？

㊻　ところで，**こんや**，ようじ　あるかい。

さしあげる(3)

(1)㉞　この　きっぷ，よろしかったら，**さしあげ**ますが……。

(2)㉛　じゃあ，かちょうに　**さしあげる**　ことに　します。

(3)㉘　かちょうさんに　**さしあげ**たら，どう。

さむい〔寒い〕(1)

⑧　きょうは，**さむい**ね。

さん(9)

⑥　たかはし**さん**，おはようございます。

⑪　かとう**さん**，この　かぶきの　きっぷ，よかったら，あげるよ。

㉑　この　きっぷ，たかはし**さん**に　もらったんだけど，いけなく　なって　しまったんです。

㉒　たかはし**さん**が　くれたの？

㉘　かちょう**さん**に　さしあげたら，どう。

㊽　かとう**さん**に　もらったんだが。

⑨⓪　それで，よしだ**さん**に　きっぷ　あげたんだよ。

⑨④　たかはし**さん**に　あげたんですか。

⑨⑥　あの　きっぷは，けさ，たかはし**さん**が　わたしに　くださったんです。

ざんねんな〔残念な〕(1)

⑧⑧　あー，**ざんねんだ**けど，しごとが　できて　しまって……。

じ〔時〕(1)

⑦④　これ，ご**じ**はんまでに　たのむよ。

しごと〔仕事〕(2)

⑥⑤　ああ，きゅうに，**しごと**が　できてね。

⑧⑧　あー，ざんねんだけど，**しごと**が　できて　しまって……。

しつれい〔失礼〕(2)

③②　かちょう，ちょっと　**しつれい**します。

⑧③　おさきに　**しつれい**します。

しまう(4)

(1)⑧⑧　あー，ざんねんだけど，しごとが　できて　**しまって**……。

(2)②①　この　きっぷ，たかはしさんに　もらったんだけど，いけなく　なって　**しまった**んです。

③⑨　ひとに　もらったんですが，きゅうに　いけなく　なって　**しまった**んです。

⑦①　いそがしく　なって，いけなく　なって　**しまった**んだ。

じゃあ(7)

①⑧　**じゃあ**，いただきます。

③①　**じゃあ**，かちょうに　さしあげる　ことに　します。

④⓪　**じゃあ**，もらいます。

④④　**じゃあ**，いちまいは　だれかに　あげよう。

⑥⓪　**じゃあ**，きょうじゅうに　たのむよ。

⑥⑦　**じゃあ**，これを　たのむ。

㊽ **じゃあ**，あの　きっぷは……。

じゅう〔中〕(1)

㊿ じゃあ，きょう**じゅう**に　たのむよ。

すきな〔好きな〕(1)

㉙ かぶきが　とても　**すきだ**そうよ。

する(7)

(1)㉛ じゃあ，かちょうに　さしあげる　ことに　**し**ます。

㉜ かちょう，ちょっと　しつれい**し**ます。

㉝ おさきに　しつれい**し**ます。

(2)⑤ あしたの　きっぷ，どう　**する**の。

(51) おねがい**する**わ。

(61) わたしは，こっちを　**する**から。

(3)(91) いのうえくんは　あの　きっぷ　どう　**した**？

ぜったいに〔絶対に〕(1)

① **ぜったいに**，いやよ。

そう(10)

⑩ ああ，**そう**だ。

㉖ **そう**ね。

㉗ あっ，**そう**だ。

㉚ **そう**ですか。

(43) **そう**かい。

(50) あっ，**そう**ね。

(59) ああ，**そう**ですか。

(68) **そう**だ。

(89) **そう**ですか。

(95) **そう**だよ。

そうだ(1)

㉙ かぶきが　とても　すきだ**そう**よ。

それじゃあ(1)

㊷ **それじゃあ**。

それで(1)

㊿ **それで**，よしださんに　きっぷ　あげたんだよ。

それでは(2)

㊷ **それでは**，だれかに　あげて　ください。

㉒ **それでは**，いただきます。

そんな(1)

② **そんな**　こと　いっても……。

だ(11)

(1)⑬　きょうの**だ**よ。

㉟　ほう，かぶき**だ**ね。

(2)⑩　ああ，そう**だ**。

㉗　あっ，そう**だ**。

㊽　そう**だ**。

(3)㊺　そう**だ**よ。

(4)㉑　この　きっぷ，たかはしさんに　もらったん**だ**けど，いけなく　なって　しまったんです。

㊽　かとうさんに　もらったん**だ**が。

㉑　いそがしく　なって，いけなく　なって　しまったん**だ**。

㉙　やまだ　かちょうが　くれたん**だ**が……。

㊿　それで，よしださんに　きっぷ　あげたん**だ**よ。

たいへん〔大変〕(1)

㊹ **たいへん**ですね。

たかはし〔高橋〕(7)

⑥ **たかはし**さん，おはようございます。

㉑　この　きっぷ，**たかはし**さんに　もらったんだけど，いけなく　なって　しまったんです。

㉒ **たかはし**さんが　くれたの？

㉜ ああ，かちょうに　いただいた　きっぷは，**たかはし**くんに　やりました。

㉔ **たかはし**さんに　あげたんですか。

㉖ あの　きっぷは，けさ，**たかはし**さんが　わたしに　くださったんです。

㉗ えっ，**たかはし**くんに　もらったの？

だけ(1)

㊶ だけど，ぼくは，いちまい**だけ**で　いいな。

だけど(1)

㊶ **だけど**，ぼくは，いちまいだけで　いいな。

たのむ〔頼む〕(3)

㊵ じゃあ，きょうじゅうに　**たのむ**よ。

㊼ じゃあ，これを　**たのむ**。

㊹ これ，ごじはんまでに　**たのむ**よ。

たら(4)

⑪ かとうさん，この　かぶきの　きっぷ，よかっ**たら**，あげるよ。

㉞ この　きっぷ，よろしかっ**たら**，さしあげますが……。

㊾ この　きっぷ，よかっ**たら**，あげるよ。

㉘ かちょうさんに　さしあげ**たら**，どう。

だれか(3)

㉕ **だれか**　いく　ひと，いないでしょうか。

㊷ それでは，**だれか**に　あげて　ください。

㊹ じゃあ，いちまいは　**だれか**に　あげよう。

ちょっと(1)

㉜ かちょう，**ちょっと**　しつれいします。

で(1)

㊶ だけど，ぼくは，いちまいだけ**で**　いいな。

できる(2)

⑥⑤　ああ，きゅうに，しごとが　**できて**ね。

⑧⑧　あー，ざんねんだけど，しごとが　**できて**　しまって……。

でしょう(1)

㉕　だれか　いく　ひと，いない**でしょう**か。

です(12)

(1)⑤⑤　ああ，いい**です**ね。

⑥④　たいへん**です**ね。

(2)③⓪　そう**です**か。

⑤⑨　ああ，そう**です**か。

⑧⑨　そう**です**か。

(3)㉑　この　きっぷ，たかはしさんに　もらったんだけど，いけなく　なって　しまったん**です**。

③⑨　ひとに　もらったんですが，きゅうに　いけなく　なって　しまったん**です**。

⑨⑥　あの　きっぷは，けさ，たかはしさんが　わたしに　くださったん**です**。

(4)⑫　いつの**です**か。

⑮　いいん**です**か。

⑨④　たかはしさんに　あげたん**です**か。

(5)③⑨　ひとに　もらったん**です**が，きゅうに　いけなく　なって　しまったんです。

ても(1)

②　そんな　こと　いって**も**……。

でも(1)

④⑦　いのうえくんに**でも**　やろう。

どう(3)

⑤　あしたの　きっぷ，**どう**　するの。

㉘　かちょうさんに　さしあげたら，**どう**。

㉛　いのうえくんは　あの　きっぷ　**どう**　した？

どうぞ(2)

㊺　ええ，**どうぞ**。

㊷　**どうぞ**。

どうも(1)

⑲　**どうも**　ありがとうございます。

ところで(1)

㊻　**ところで**，こんや，ようじ　あるかい。

とても(2)

⑨　ええ，**とても**。

㉙　かぶきが　**とても**　すきだそうよ。

とる〔取る〕(1)

㊻　コピーを　**とり**ましょうか。

な(1)

㊶　だけど，ぼくは，いちまいだけで　いい**な**。

ない(6)

(1)㉕　だれか　いくひと，い**ない**でしょうか。

㊹　かぶきに　いか**ない**か。

(2)⑰　いら**なく**　なったから……。

㉑　この　きっぷ，たかはしさんに　もらったんだけど，いけ**なく**　なって　しまったんです。

㉙　ひとに　もらったんですが，きゅうに　いけ**なく**　なって　しまったんです。

㉑　いそがしく　なって，いけ**なく**　なって　しまったんだ。

なにか〔何か〕(1)

㊷　いのうえくん，こんや，**なにか**　ようじが　ある？

なにも〔何も〕(1)

㊸ いえ，**なにも** ありませんが。

なる(5)

(1)㉑ いそがしく **なって**，いけなく なって しまったんだ。

(2)㉑ この きっぷ，たかはしさんに もらったんだけど，いけなく **なって** しまったんです。

㊴ ひとに もらったんですが，きゅうに いけなく **なって** しまったんです。

㉑ いそがしく なって，いけなく **なって** しまったんだ。

(3)⑰ いらなく **なった**から……。

に〔二〕(2)

⑭ あら，**に**まいも？

㊲ **に**まい あるね。

に(20)

(1)㉘ かちょうさん**に** さしあげたら，どう。

㉛ じゃあ，かちょう**に** さしあげる ことに します。

㊷ それでは，だれか**に** あげて ください。

㊹ じゃあ，いちまいは だれか**に** あげよう。

㊼ いのうえくん**に**でも やろう。

㊾ はな**に** みずを やって きます。

㊿ それで，よしださん**に** きっぷ あげたんだよ。

(92) ああ，かちょうに いただいた きっぷは，たかはしくん**に** やりました。

(94) たかはしさん**に** あげたんですか。

(2)㉑ この きっぷ，たかはしさん**に** もらったんだけど，いけなく なって しまったんです。

㊴ ひと**に** もらったんですが，きゅうに いけなく なって しまったんです。

㊽ かとうさん**に** もらったんだが。

㉒ ああ，かちょう**に** いただいた きっぷは，たかはしくんに やりました。

㉗ えっ，たかはしくん**に** もらったの？

(3)㉖ あの きっぷは，けさ，たかはしさんが わたし**に** くださったんです。

(4)㊹ かぶき**に** いかないか。

㊼ かちょう，かぶき**に**は？

(5)㊿ じゃあ，きょうじゅう**に** たのむよ。

(74) これ，ごじはんまで**に** たのむよ。

(6)(81) じゃあ，かちょうに さしあげる こと**に** します。

ね(9)

⑧ きょうは，寒い**ね**。

㉓ あ，きょうの**ね**。

㉖ そう**ね**。

㉟ ほう，かぶきだ**ね**。

㊼ にまい ある**ね**。

㊿ あっ，そう**ね**。

(55) ああ，いいです**ね**。

(64) たいへんです**ね**。

(65) ああ，きゅうに，しごとが できて**ね**。

の(9)

(1)⑤ あした**の** きっぷ，どう するの。

⑪ かとうさん，この かぶき**の** きっぷ，よかったら，あげるよ。

(2)⑫ いつ**の**ですか。

⑬ きょう**の**だよ。

㉓ あ，きょう**の**ね。

㊱ きょう**の**か。

(3)⑤ あした**の** きっぷ，どう する**の**。

㉒ たかはしさんが　くれた**の**？

㊼ えっ，たかはしくんに　もらった**の**？

は(9)

(1)⑧ きょう**は**，さむいね。

㊶ だけど，ぼく**は**，いちまいだけで　いいな。

㊹ じゃあ，いちまい**は**　だれかに　あげよう。

㊶ わたし**は**，こっちを　するから。

㊶ いのうえくん**は**　あの　きっぷ　どう　した？

㊷ ああ，かちょうに　いただいた　きっぷ**は**，たかはしくんに　やりました。

㊻ あの　きっぷ**は**，けさ，たかはしさんが　わたしに　くださったんです。

(2)㊽ じゃあ，あの　きっぷ**は**……。

(3)㊼ かちょう，かぶきに**は**？

はい(1)

㊻ **はい**。

はっ(1)

㊼ **はっ**，いただきます。

はな〔花〕(1)

㊾ **はな**に　みずを　やって　きます。

はん〔半〕(1)

㊹ これ，ごじ**はん**までに　たのむよ。

ひと〔人〕(2)

㉕ だれか　いく**ひと**，いないでしょうか。

㊾ **ひと**に　もらったんですが，きゅうに　いけなく　なって　しまったんです。

ほう(1)

㉟ **ほう**，かぶきだね。

ぼく(1)

㊶ だけど，**ぼく**は，いちまいだけで　いいな。

まい〔枚〕(4)

⑭ あら，に**まい**も？

㊼ に**まい**　あるね。

㊶ だけど，ぼくは，いち**まい**だけで　いいな。

㊹ じゃあ，いち**まい**は　だれかに　あげよう。

ました(1)

㊷ ああ，かちょうに　いただいた　きっぷは，たかはしくんに　**やりました**。

ましょう(1)

㊻ コピーを　とり**ましょう**か。

ます(9)

⑱，㉛，㉜，㉞，㊵，㊾，㊼，㊷，㊸

ません(1)

㊸ いえ，なにも　あり**ません**が。

まつ〔待つ〕(1)

④ **まて**よ。

まで(1)

㊹ これ，ごじはん**まで**に　たのむよ。

みず〔水〕(1)

㊾ はなに　**みず**を　やって　きます。

も(1)

⑭ あら，にまい**も**？

もらう(5)

(1)㊵ じゃあ，**もらい**ます。

(2)㊼ えっ，たかはしくんに　**もらった**の？

(3)㉑ この　きっぷ，たかはしさんに　**もらった**んだけど，いけなく　なっ

て　しまったんです。

㊴　ひとに　**もらった**んですが，きゅうに　いけなく　なって　しまったんです。

㊽　かとうさんに　**もらった**んだが。

やあ(1)

⑦　**やあ**，おはよう。

やまだ〔山田〕(2)

㊾　**やまだ**　かちょうが　くれたんだが……。

㊿　**やまだ**　かちょうが　くれた？

やる(4)

(1)㊷　ああ，かちょうに　いただいた　きっぷは，たかはしくんに　**やり**ました。

(2)㊾　はなに　みずを　**やって**　きます。

(3)㊽　この　きっぷ，**やる**よ。

(4)㊼　いのうえくんにでも　**やろ**う。

よ(11)

①　ぜったいに，いや**よ**。

④　まて**よ**。

⑪　かとうさん，この　かぶきの　きっぷ，よかったら，あげる**よ**。

⑬　きょうのだ**よ**。

㉙　かぶきが　とても　すきだそう**よ**。

㊵　じゃあ，きょうじゅうに　たのむ**よ**。

㊾　この　きっぷ，よかったら，あげる**よ**。

㊹　これ，ごじはんまでに　たのむ**よ**。

㊽　この　きっぷ，やる**よ**。

㊿　それで，よしださんに　きっぷ　あげたんだ**よ**。

㊺　そうだ**よ**。

ようじ〔用事〕(2)

㊷ いのうえくん，こんや，なにか **ようじ**が ある？

㊻ ところで，こんや，**ようじ** あるかい。

よしだ〔吉田〕(1)

㊿ それで，**よしだ**さんに きっぷ あげたんだよ。

よろしい(1)

㉞ この きっぷ，**よろしかっ**たら，さしあげますが……。

わ(1)

㊶ おねがいする**わ**。

わかる〔分かる〕(1)

㊺ うん，**わかった**。

わすれる〔忘れる〕(1)

㊽ あっ，**わすれて** いた。

わたし(3)

③ **わたし**，かえる。

㊶ **わたし**は，こっちを するから。

㊻ あの きっぷは，けさ，たかはしさんが **わたし**に くださったんです。

を(4)

㊾ はなに みず**を** やって きます。

㊶ わたしは，こっち**を** するから。

㊻ コピー**を** とりましょうか。

㊼ じゃあ，これ**を** たのむ。

ん(11)

(1)㉑ この きっぷ，たかはしさんに もらったんだけど，いけなく なって しまった**ん**です。

㊴ ひとに もらった**ん**ですが，きゅうに いけなく なって しまったんです。

㊴ ひとに もらったんですが，きゅうに いけなく なって しまった

んです。

⑭ たかはしさんに　あげたんですか。

⑯ あの　きっぷは，けさ，たかはしさんが　わたしに　くださったんです。

(2)⑮ いいんですか。

(3)㉑ この　きっぷ，たかはしさんに　もらったんだけど，いけなく　なって　しまったんです。

㊽ かとうさんに　もらったんだが。

㊼ いそがしく　なって，いけなく　なって　しまったんだ。

㊾ やまだ　かちょうが　くれたんだが……。

㊿ それで，よしださんに　きっぷ　あげたんだよ。

資料2. シナリオ全文

題　　名　日本語教育映画
「このきっぷを　あげます」
——やり・もらいの表現　1——

企　　画　国立国語研究所
制　　作　日本シネセル株式会社
フィルム　16m/mＥＫカラー・スタンダード
巻　　数　全１巻
上映時間　５分
現 像 所　東映化学
録　　音　読売スタジオ
完　　成　昭和58年３月30日

制作スタッフ

制　作	静永純一	制作担当	佐藤吉彦
脚　本	前田直明	演　出	前田直明
演出助手	野澤和之	撮　影	相良国康
撮影助手	加藤正義 渡辺晶	照　明	伴野　功
照明助手	北見慶生 中安和則	スクリプト	成田由紀子
録　音	小川正城（読売スタジオ）		
ネガ編集	亀井　正		

配　役　高橋　江原正士　吉田　高瀬佳子
加藤　唐木ちえみ　田中　久保田民絵
井上　金房　求　山田課長　簗(やな)正昭
課員Ａ　島村直巳

カット	画　　面	セ　リ　フ
1	メイン・タイトル 「日本語教育映画」 テーマ・タイトル 「このきっぷを　あげます」 —やり・もらいの表現　1—	
2	夕方の公園	
	1 公園のベンチの吉田・高橋 背景に東京タワー 二人は，口論をしている	吉田「①ぜったいに，いやよ。」 高橋「②そんな　こと　いっても……。」 吉田「③わたし，かえる。」
	2 切符を差し出す高橋	高橋「④まてよ。
	3 切符	⑤あしたの　きっぷ，どう　するの。」
	4 立ち去る吉田 高橋も歩き去る	
3	エレベーター・ホールのあるビルの一階	
	1 入口から歩いてくる加藤，エレベーターを待つ高橋に近づく	加藤「⑥たかはしさん，おはようございます。」 高橋「⑦やあ，おはよう。 ⑧きょうは，さむいね。」 加藤「⑨ええ，とても。」
	2 切符をポケットから出す高橋	高橋「⑩ああ，そうだ。 ⑪かとうさん，このかぶきの　きっぷ，よかったら，あげるよ。」 加藤「⑫いつのですか。」 高橋「⑬きょうのだよ。」
	3 加藤	加藤「⑭あら，にまいも？ ⑮いいんですか。」
	4 高橋	高橋「⑯うん。 ⑰いらなく　なったから……。」
	5 エレベーターに乗る二人	加藤「⑱じゃあ，いただきま

		す。 ⑲どうも　ありがとうございます。」
4	会社事務室内 1加藤，受話器を取る 吉田，田中，井上，課長，その他二，三名の課員が働いている	
5	昼休みの喫茶店内 1喫茶店内 加藤と田中，加藤ハンドバッグから切符を取り出す	加藤「⑳あっ。 ㉑この　きっぷ，たかはしさんに　もらったんだけど，いけなくなって　しまったんです。」
	2田中，切符を受け取る	田中「㉒たかはしさんが　くれたの？ ㉓あ，きょうのね。」 加藤「㉔ええ。 ㉕だれか　いく　ひと，いないでしょうか。」
	3田中	田中「㉖そうね。 ㉗あっ，そうだ。 ㉘かちょうさんに　さしあげたら，どう。 ㉙かぶきが　とても　すきだそうよ。」
	4加藤	加藤「㉚そうですか。 ㉛じゃあ，かちょうにさしあげる　ことに　します。」
6	会社事務室内 1新聞を読んでいる課長 加藤，入ってくる	加藤「㉜かちょう，ちょっとしつれいします。」 課長「㉝うん。」
	切符を差し出す加藤	加藤「㉞この　きっぷ，よろ

		しかったら，さしあげますが……。」
		課長「㉟ほう，かぶきだね。㊱きょうのか。㊲にまい　あるね。」
	2 課長肩越し加藤	加藤「㊳ええ。㊴ひとに　もらったんですが，きゅうに　いけなく　なって　しまったんです。」
	3 加藤肩越し課長	課長「㊵じゃあ，もらいます。「㊶だけど，ぼくは，いちまいだけで　いいな。」
	4 加藤	加藤「㊷それでは，だれかにあげて　ください。」
	5 課長と加藤	課長「㊸そうかい。㊹じゃあ，いちまいはだれかに　あげよう。」
		加藤「㊺ええ，どうぞ。」
	立ち去る加藤 課長	課長「㊻ありがとう。」㊼いのうえくんにでもやろう。」
	6 加藤，自分の席につこうとする	加藤「㊽あっ，わすれて　いた。㊾はなに　みずを　やって　きます。」
	向かいには田中が座っている	田中「㊿あっ，そうね。(51)おねがいするわ。」
	加藤，植木鉢を持って出る	
7	湯わかし室	
	1 植木鉢に水をやる加藤	
8	会社事務室内	
	1 井上，入ってくる	課長「(52)いのうえくん，こんや，なにか　ようじがある？」

	2 課長と井上	井上「㊸いえ，なにも　ありませんが。」 課長「㊹かぶきに　いかないか。」
	3 井上	井上「㊺ああ，いいですね。」
	4 課長，井上	課長「㊻はい。」 井上「㊼はっ，いただきます。」 課長「㊽かとうさんに　もらったんだが。」 井上「㊾ああ，そうですか。」
9	湯わかし室 1 植木鉢に水をやり終える加藤	
10	会社事務室内 1 時計　三時二十五分 2 打ち合わせする課長と井上 井上立ち上がる	課長「㊿じゃあ，きょうじゅうに　たのむよ。」 (51)わたしは，こっちをするから。」
	3 働く課長と井上 4 吉田，お茶を持ってくる 働いている課長	吉田「(52)どうぞ。」 課長「(53)ああ，ありがとう。」 吉田「(54)たいへんですね。」 課長「(55)ああ，きゅうに，しごとが　できてね。」 吉田「(56)コピーを　とりましょうか。」
	5 吉田肩越し課長	課長「(57)じゃあ，これを　たのむ。」 (58)そうだ。 (59)この　きっぷ，よかったら，あげるよ。」
	6 吉田 7 課長，切符を渡す	吉田「(60)ええ……。」 課長「(61)いそがしく　なって，いけなく　なって　しまったんだ。」 吉田「(62)それでは，いただき

		ます。 ㉓ありがとうございます。」
	8 井上，書類を持って事務室を出ていく	
11	高橋のいる社内の事務室	
	1 事務室に入ってくる井上	井上「㉔これ，ごじはんまでに　たのむよ。」 高橋「㉕うん，わかった。」 井上「㉖ところで，こんや，ようじ　あるかい。」 高橋「㉗うん……？」
	2 井上，切符を渡す	井上「㉘この　きっぷ，やるよ。 ㉙やまだ　かちょうがくれたんだが……。」
	3 切符を受けとる高橋	高橋「㉚やまだ　かちょうがくれた？」
	4 高橋の肩をたたいて出ていく井上	井上「㉛うん。 ㉜それじゃあ。」
12	国立劇場内	
	1 劇場内に入る高橋 席につく 隣には吉田が席についている	
	2 幕が上がる 3 歌舞伎舞台 1 4 〃 2 5 〃 3	（七つ面） 市川羽左衛門 尾上龍之助 中村雀右衛門 尾上松緑 岩井半四郎 他
13	会社事務室内	
	1 課員が事務室を出る	課員A「㉝おさきに　しつれいします。」 課員B「㉞おさきに。」 課長「㉟うん。」
	2 加藤，事務室にやってくる	加藤「㊱あらー？

		㊼かちょう，かぶきには？」
	3課長	課長「㊽あー，ざんねんだけど，しごとが できてしまって……。」
	4加藤	加藤「㊾そうですか。」
	5課長	課長「㊿それで，よしださんに きっぷ あげたんだよ。」 (51)いのうえくんは あの きっぷ どう した？」
	6課長肩越し井上	井上「(52)ああ，かちょうに いただいた きっぷは，たかはしくんに やりました。」
	7井上肩越し加藤	加藤「(53)えー？ (54)たかはしさんに あげたんですか。」
	8加藤肩越し井上	井上「(55)そうだよ。」
	9加藤	加藤「(56)あの きっぷは，けさ，たかはしさんが わたしに くださったんです。」
	10井上	井上「(57)えっ，たかはしくんに もらったの？ (58)じゃあ，あの きっぷは……。」
14	夜の銀座通り 1時計台 仲良く歩く高橋と吉田	
15	企画・制作タイトル 企画　国立国語研究所 制作　日本シネセル株式会社	

日本語教育映画解説26

このきっぷを　あげます
—やり・もらいの表現1—

昭和62年12月

国立国語研究所
〒115 東京都北区西が丘3—9—14
電話　03（900）3111（代表）

印刷所　文唱堂印刷株式会社
電話　03（851）0111（代表）